時局情報宣傳資料

皇國內外の情勢（第十一號）

昭和十七年十月三十日

祕

情報局

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

◉注　意

一、本册子は當局の作製せるものを連絡調整の上編纂したものである。
二、本書の目的は關係官の職務遂行上の參考たらしむるに在るも、內容には祕に屬するものあるを以て保存取扱ひに就いては特に注意を望む。
三、本册子は情勢の變化に伴ひ、時々改訂せらるることあるを以て、改訂版を受領せば速に新資料と差換へ、舊資料は燒却せられたい。
四、本册子は職務上利用すべきものなるを以て、異動等の場合には必ず後任者に引繼ぐべきものである。

皇國內外の情勢（第十一號）

目　次

頁

歐米情勢

第一、獨ソ戰況とソ聯の國內情勢……一
第二、阿大陸における米英の防衛態勢と米國の西亞進出……五
第三、第二戰線結成を繞る米英ソの對立……一一
第四、米國の軍擴とインフレ對策……一七
第五、米國最近の對南米抱込工作……二八

大東亞情勢

第一、建國十年の滿洲國……三五
第二、支那における治安工作の現況……四一
第三、南方諸地域の建設狀況……四六

アジア歴史資料センター
http://www.jacar.go.jp

第四、印度反英抗爭の發展……五六
國內情勢……六〇
第一、大東亞省の設立と行政の簡素强力化……六〇
第二、學制改革……六七
第三、產業統制の進展……七二
第四、重要物資の生產增强……七五
第五、戰時陸運の非常體制確立……八〇
第六、最近の食糧事情—外米依存の脫却……八四
第七、農村における思想動向……八七
附錄、地方長官會議における東條內閣總理大臣訓示。
地方長官會議に對する鈴木企畫院總裁口演
生產關係者における東條內閣總理大臣挨拶要旨

歐米情勢

第一、獨ソ戰況とソ聯の國內情勢

セワストポリの陷落が七月二日、ロストフの陷落が八月二十四日、獨逸軍は破竹の勢ひを以て九月初旬にはスターリングラード市に迫り、同中旬、一部はス市市街の一角に突入し、既に同市の大部分を占領してゐる。獨逸軍のス市進擊は極めて巧妙に行はれた。卽ちドン河彎曲部方面より進擊した西正面軍がス市に對し强壓を加へつつも兵站補給に自重しつつある間に、北方よりする獨軍部隊はスターリングラード・モスクワ鐵道を遮斷すると共に、南西よりス市に對する包圍鐵環を形成し、ス市防衛赤軍の南下、コーカサス方面への脫出を不可能ならしめた。爾來二ケ月餘獨ソ兩軍のス市攻防戰は文字通り死鬪を極め、ス市の運命如何は世界の關心の的となつてゐるかの觀がある。周知の如くスターリングラード市は

ヴォルガ下流河畔にある南部ソ聯の戰略的要衝であり、かつ重要軍需工業都市である。從つてソ聯にとつてこれを失ふことは致命的打擊であり、獨軍がこれを得ることは今夏の作戰目的の大部分を達することである。すなはちス市陷落の後、獨軍はヴォルガ下流地域よりその河口アストラハンに至る線を制壓下に置くこととなり、また上流のサラトフ、クイブイシェフ等の諸要地も直接脅威を感ずるに至るのであり、かくしてソ聯の軍政兩略にわたる中心勢力はヴォルガ河以東に後退を餘儀なくされることとなる。のみならず、ス市の失陷は赤軍の中部戰線とコーカサス戰線の完全遮斷を意味し、コーカサスを北から南へ進む獨軍の作戰は極めて有利に展開されるであらう。以上の理由からソ聯はス市の防衛に必死の努力を傾けてゐるが、傳ふるところによれば、市街はセワストポリの場合と等しく殆ど要塞化せられてゐるとのことであり、獨軍も相當苦辛を重ねてゐることは確かである。しかしながら獨軍のス市攻略作戰が案外遲々たるの感あるを以て昨冬

のモスクワの轍を踏むのではないかと考へるのは當らないであらう。寧ろそれは獨軍作戰の堅實化を物語るものであつて、十月八日の獨軍司令部發表によるも、ス市攻略の戰略目的は既に達せられ、今後は成可く犧牲を少くし徐々にこれを完全占領に導く方途に出づる旨が述べられてゐる。とまれ、ス市の無力化は赤軍の守備體制に容易ならぬ打擊を加へたものであり、獨軍はこれにより與へられた課題の最大の一つを果したものと云ひ得るであらう。

次にコーカサス戰線であるが、この地方は一帶が山嶽地帶であり、作戰の急展開は困難と見られる。しかし獨軍の進擊は着々進められ現在モズドク地區にまで進出、目下グローズヌイ油田に强壓が加へられてゐる。一方ロストフから黑海岸に沿ふて進出した獨羅兩軍は九月初旬、セワストポリに次ぐ黑海の要港ノヴォロシースクを陷れ、現在ではさらに進んでツアプセ港を空陸より猛攻中である。

飜つてソ聯の國內事情に眼を轉ずれば、以上の如き南部戰線における赤軍の危

機に際し、ソ聯政府當局は事態の重大性を率直に認めこれを強調し軍民の奮起を促すに躍起となつてゐる。すなはち新聞は毎日その論説に祖國の危機を叫び、銃後の生産部門擔當者に對しては各自が職域奉公に徹底しかくして戰線への協力を增大すべきことを説き、戰線の將兵に對しては『陣地を死守せよ』、『祖國の運命は諸士が獨軍の前進を阻むか否かにかかる』等書立て、軍民の士氣鼓舞策としては、七月下旬新に「スヴォーロフ」、「クトゥーゾフ」、「アレクサンドル・ネフスキー」（いづれもロシヤ史上有名なる祖國防衛戰の勇將である）の名を冠せる勳章の制度を設けた。また戰時財政を賄ふ一助として十五億留の『新富籤』を發行し、勞働力を確保するため高等教育制度の全面的改正を行ふ等必死の努力をつづけてゐる。

次に國内の食糧事情であるが、ウクライナを初め南部ソ聯の豐饒な地方が獨軍の制壓下に置かれたため、食糧問題は非常に逼迫してゐると見られる。しかしソ聯當局は開戰直後極端な消費規制を實施してをり、かつ戰前から約一ケ年半分以上の穀物貯藏を行つてゐたとも稱せられてゐるので、今直ちにソ聯全體の食糧危機が襲來するとは考へられない。勿論、國民は戰爭の影響により次第に悲慘な狀態に逐ひ込まれてゐるのは事實であるが、元來生活水準の極めて低い國民だけに、この點は一般西歐諸國の場合とは多少趣きを異にすると考へられる。

要するに、獨ソ開戰以來二ケ年にしてソ聯は今重大なる難局に逢着してゐるわけであるが、この戰爭が世界的規模における決戰であることをソ聯國民も漸く理解しつつある模樣で、現政權が依然强固な統裁力を持續する限り、國内問題から戰爭を放棄するに至るとは現在のところ未だ考へられない。

第二、阿大陸における米英の防衛態勢と米國の西亞進出

樞軸軍の南コーカサス作戰の發展は、北阿戰線の進捗と共に土耳古を挾むで西亞における英國の權益、殊にメソポタミア、スエズに重壓を加へることになつた。

七月トブルグ奪還以來樞軸軍は五百粁餘り進擊し、炎熱の下主として增援兵力の集中と後方補給とを行ひ、エル・アラメインの線で新たな決戰が敢闘されてゐる。

元來、同方面の作戰を決定する要因は兵力と共に兵站線の强弱で、これが少なからず重要な役割を果してゐる。從つて兩軍共に兵站線の强化に全力を拂つてきた。從つて七月のトブルグ奪還は樞軸側にこの兵站線を半分以下短縮した外に、補裝自動車路、鐵道等の利用をも可能ならしめた。また、六月下旬パンテレリア、クレタ南方海上の海戰により樞軸側は略、その海上輸送を確保し、情勢を有利に轉換した。これに反し、英米側は遂に海上輸送を斷念する外なかつた。なほ八月中旬、北阿戰線の危機挽回のため、米英側は戰艦四、航空母艦三、その他多數艦艇を以て商船約二十隻(油槽船を含む)を護衛し(合計五十隻に近い)、地中海橫斷を强行した。樞軸側海、空軍はこれを西地中海に邀擊し、聯合軍側航空母艦一、巡洋艦二、驅逐艦三等を初め商船一五(一八萬噸、油槽船は全滅)を喪失せしめ、

殲滅的打擊を與へた。かくて聯合軍の北阿急援の企圖は全く挫折した。

地中海の制海權を喪ひ、また爆擊を避けて一時東方に艦隊を退避せしめる外なかつた英米側に殘された途は樞軸側補給基地トブルグの擊摧と西亞、阿大陸經由の補給强化のみであつた。英米は反復トブルグを爆擊しても遂に成功せず、九月十三日トブルグ危襲上陸或はその南方ジャロ・オアシス攻略等により樞軸側兵站線の遮斷を企て、樞軸側の反擊により慘憺たる敗北を喫した。ここに迂回路による補給强化が緊喫となつた。このため既に開戰以來英米は阿大陸橫斷路の强化、利用に努め、英領西阿、リベリア、佛領赤道アフリカ、白領コンゴ、南阿等に相次いで進駐した。

陸上交通路による輸送は海上輸送に比し小量とはいへ、距離の短縮と危險の皆無との點で極めて重要な意義を持つ。さらにこれら阿大陸空陸路は地中海、印度洋の海上路に脅威を受ける米英としてはソ聯、重慶への援助、西亞、印度への補

給のためにも着目されてゐる。かくて最近米英は同補給路確保のため陸軍兵力のみならず多數の外交官を派遣し、恆久的な交通線確保に努めてゐる。殊に米國は昨年舊伊領エリトリアに有力な空軍と多數の技術家、資材を輸送し、新設の機械修理組立工場において北阿戰線の戰車、航空機等の修理、補給に當り、マッサウ港にはアフリカ派遣米陸海軍の最大基地として大修理施設、港灣設備を設備した。

また南阿のケープ・タウンは東岸のダーバンと共にシンガポールを喪失した英國にとり太平洋、印度洋に對する殘された最後の作戰基地であり、この方面海上警備に英本國より戰艦二、三隻、その他巡洋艦、驅逐艦二、三十隻が回航されてゐると傳えられてゐる。

ここに阿大陸周緣海面の安全と補給路確保にとり重大な脅威と米英側に考へられてゐるのはヴィシー政權下のダカール及びマダガスカル島である。英軍は五月初旬、樞軸側のマダガスカル島利用の懸念を口實に不法にも同島北灣に上陸、デ

イエゴ・スアレス港一帶の地域を占領し、九月初旬には同島西岸一帶に軍事行動を擴張、同島の主要部分を强奪するに至つた。また、西阿のダカールはブラジルのナタールと共に大西洋を挾む米阿兩大陸最近接地點であり、從來米英は同地が樞軸側に占領される際の危險を誇大に宣傳してきた。また、最近ブラジルの參戰と共に英國側は同港が樞軸潛水艦基地に利用されまた獨爆擊隊進出につき獨政府はヴィシー政府と交渉中なり等と宣傳に努めてゐる。米國も九月初旬以來バザーストに兵力を、フリータウンには航空人員及び器材を揚陸し、さらに白領コンゴの首都レオポルドヴィル等にも各種軍需資材、陸軍兵力を集中し、ド・ゴールも同方面で何事か畫策してゐる。これらはサハラ貫通鐵道の完成(豫定は明春)以前にダカールのみならずモロッコをも攻略し、北阿戰線樞軸軍の背面を衝き、さらにイタリア、バルカンに進攻せんとする意圖なりと解される。

これが成否はとにかく、歐洲における第二戰線結成に失敗した米英は阿大陸を

次期作戰の一舞臺と期待してゐる。獨ソ戰線が一段落し氣候も好轉した最近の北阿戰線よりの報道は米英軍の阿大陸增派と北阿における空軍を中心とする兩軍の緊張、殊に英機械化部隊、砲兵部隊の顯著な活躍を傳えてゐる。

かかる北阿戰況の緊迫と共に、英國は西亞駐屯軍の大改編を行ひ、その主力を北阿に移動せしめ、これに代つて定期的に米國軍が西亞に積極的に派遣されてゐる。ソ聯軍もコーカサス危機に備へて西亞より撤退したとも傳えられてゐる。かくて情勢は米軍事勢力の西亞進出を要求するが、ウィルキーの西阿訪問以來、同方面における米國の經濟的進出が特に顯著である。就中最重要なのは石油資源確保で、米軍進駐に際し所要燃料はイラクより直接供給する協定が成立し、これに必要な精油所の人員、資材は既に米國より輸送され、西亞石油に對する米勢力進出の第一歩が踏み出された。米國はさらにイラン政府に迫りイラン北部の廣大地域に亙る石油採掘權を讓らしめ、スタンダード石油會社をしてこの開發に當らしめ、また英系のイラク石油會社を完全に肩替りし、目下アングロ・イラニアン石油會社の株式買收を交渉中である。また、最近の情報によれば英國經營のイラン鐵道も米國に買收されたとのことである。米勢力はさらにトルコに進出し、同地における英獨クローム爭奪戰に割り込み、トルコ政府との通商協定によりクローム年三萬噸の輸入を計つてゐる。

北阿情勢の逼迫は西亞、阿大陸における英勢力の後退を餘儀なくし、これと共に右に見る如く米國は英國の遺產相續人たる本性を露呈しつつある。

第三、第二戰線結成を繞る米英ソの對立

去る五月下旬モロトフの英米歷訪は米英ソ三國間に戰爭遂行並びに戰後歐洲經營に關する相互協力を規定する英ソ條約及び米ソ諒解を產み、當時大西洋憲章について噂されてゐた米英ソ三國間の意見對立を一應解消したかに見へた。しかし、

春季攻勢としては些か遅れた六月初旬の獨ソ戰再開後、樞軸軍の目覺しい進擊は南部ソ聯幾多の軍事要點、產業資源竝びに・施設を奪ひ、ソ聯をして挽回し難い局面に逢着せしめた。ソ聯必死の防戰をよそに、五月の對ソ援助約束に從ひ米英の實行したことはムルマンスク經由の物資輸送と獨本土空襲のみで、英本土には數百萬の訓練された英國男子が一滴の血も流さず英本土防衛を名に漫然駐屯し、また數萬の米增援兵は徒らに英國民の顰蹙を招く外になすところがない。かかる事態は樞軸の攻擊を一手に引受けてゐるソ聯にとり到底滿足しえない。ソ聯はあらゆる努力を盡して、駐米、英大使を通じ獨逸を牽制するに足る約束の一層大規模な實行を米英兩國政府に要求すると共に兩國の輿論を煽動するに努めた。かく起勵された輿論の動向とソ聯の占める重大な役割とに鑑み米英としては事態の放任を許さず、不本意ながらスターリンの招請に應じ、英首相を八月十一日モスクワに派遣せざるをえなくなつた。

この會議には英代表チャーチル以下約十名、米代表ハリマン以下六名、ソ聯側スターリン、モロトフ、ウォロシーロフ元帥等が出席し、夫々軍事當局首腦者も參加し、八月十二日より四日間に亙つて會議が續けられた。

このとき各國首腦部間に取極められた『戰爭遂行に關する重要決議事項』の內容は未發表であるが、ソ聯諸新聞の論調及び歸朝後英下院におけるチャーチルの說明等より綜合すると、英首相の使命は第二戰線未結成の辯解と對獨不媾和再確認の提議にあつたこと極めて明瞭で、これに對しソ聯側は第二戰線に關する英國の誠意を疑ひ、露骨に不平を洩し、米國の斡旋にかかはらず結局兩者間に釋然たらざるものが殘つた。

かかる折から、英首相の未だ歸朝しない八月十九日拂曉、彼の辯解をあたかも裏書するかの如く、英軍により北佛ヂエップ上陸戰が行はれた。聯合軍はカナダ兵を主幹に、米、英、ド・ゴール等の各軍合計約二ケ師團より成り、三十五隻の輸送

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

船に分乘、艦艇十三—十五隻護衛の下に約三、四百の上陸舟艇によつて敢行された。これは北佛における第六回目の上陸戰で、戰車を初めて揚陸した點が注目された。しかし獨逸軍の果敢な反擊は敵艦艇十九、船舶十一を擊沈破、上陸軍をして三千の犧牲を殘して敗退せしめ、結局第二のダンケルクに終らしめた。第二戰線論はこれより一時沈靜に歸したが、それにしても餘りにも貴重な犧牲ではなかつたらうか。

ヂエップ及びトブルグの相次ぐ敗戰が米英の士氣に與へた影響は重大であつた。ここに米大統領は反樞軸諸國を激勵し、中立國の反樞軸化を煽動する必要を痛感し、九月初旬よりナタール(ブラジル)經由で特使ウィルキーをカイロ、バクダット、アンカラ、クイブイシェフ、モスコウ、重慶等に派遣した。ウィルキーは米國の軍擴と戰時生產の進捗とを宣傳し、埃及、トルコの懷柔、ソ聯、重慶の慰撫激勵に努め、大いに反樞軸國に對する軍事的、經濟的援助の强化を仄めかした。しかしこの飛脚旅行は必しも順調でなく、既にトルコでは大統領にさえ會えず、首相、外相と會見したが、その空氣は米英には失望的に冷淡であつた。

殊に九月二十日モスコウ入のウィルキーは『スターリングラード戰線は米英の戰線』と豪語したが、彼を待つてゐたのは五十餘名の人々から發せられた第二戰線の將來に關する質問であつた。これに對しては『出來うる限り速かに歐洲第二戰線を開設することにより最も有效にソ聯を援助しうることを今や確信した。來年の夏では遲過ぎる』と漠然答へる外なかつた。しかし九月二十三日のスターリンとの會見の結果、彼は『第二戰線未結成に對するソ聯側の多大な失望と不滿とを歸朝報告』せざるをえぬはめに立至つた。

彼のソ聯退去後、十月四日一米人記者の質問に對しスターリンは書簡を以て卒直に米英兩國從來の對ソ援助が殆んど效果なく、米英が卽刻第二戰線の約束を履行すべしと主張し、米英の拱手傍觀的態度に一矢を酬いた。これがウィルキーの

ソ聯訪問への回答である。

元來、第二戰線については米英ソの意見の對立齟齬を惧れて表面的にはソ聯側から遠慮勝な要求、米英側から懷柔的な言説が行はれ、英政府は極力平靜を裝ひ、第二戰線論の擡頭を抑制するに努めてきた。獨ソ戰局が極度に逼迫しスターリングラード最後の防衛に際し米英に對するソ聯の發言權が擴大するや、ソ聯の不滿はこの直截なスターリン書簡となつて爆發した。

米英輿論が聯合國内の戰爭指導に關する意見不一致を叫べば叫ぶほど、米英首腦部の沈默振は事態の容易ではないことを暗示する如くである。駐米・英大使付公使バトラーの説明及びロンドン・タイムス紙は三國間の協力の不完全、意見の不一致を裏書する。

事實、ソ聯に次いで第二戰線を最も必要とする英國さえ確固たる作戰案も、ソ聯敗退後戰爭の全負擔を擔ひ切る自信もなく、進退兩難に陷り、徒らに米國の援

助を恃み、英輿論の一部には第二戰線不結成の責任を米國の不完全援助に轉嫁する意見さえ現はれてゐる。

しかも、この問題に對する米國輿論は極めて冷靜であるのみでなく、最近の情報によれば米大統領を繞る軍首腦部の間には、從來の作戰方針を轉換し、戰勝の捷徑は他の戰線を犧牲としても先づ全力を對日攻擊に集中するにあるとの意見が漸く强く、歐洲第一主義の英ソ當局を狼狽せしめてゐる。

問題は今次戰爭指導に關する各國の政治的態度、目標の相違にあり、十月十日歸國の途についたスタンドレー駐ソ・米大使が如何なる解決を齎らすであらうか注目に値する。果して第二戰結成は歐洲のみに限らるべきものであらうか。

第四、米國の軍擴とインフレ對策

米國は開戰以來その海軍勢力の根幹を喪ひ、年來の宿望たる兩洋作戰の基礎を

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一掃され、さらに對日攻勢據點を悉く奪はれた。しかも、歐洲の事態逼迫と共に聯合國の兵器廠たる米國の役割は益〻加重されてきた。

軍擴の中心は大東亞戰の打擊が最も大きかつた海軍の再建と空軍の擴充である。我が海鷲の果敢な攻擊は米海軍戰術及び建艦計畫を一大轉換せしめた。

六月十六日議會提出の海軍新擴張案は戰艦第一主義の解消と航空母艦建造を中心とする米海軍の根本的編成替とを意味する。同案は未着工六萬噸型戰艦五隻の建造を中止、これより捻出された建造能力、資材を航空母艦五十萬噸、巡洋艦五十萬噸、驅逐艦其他九十萬噸、合計四百隻の建造に振り替へ、航空母艦を海戰の主力とする方針に改めた。同案實施により新造及び改裝航空母艦約八十五隻(但し大東亞戰爭中喪失の分を含む)を擁しうる計算である。これと共に長距離爆擊機、艦上攻擊機、同戰鬪機の擴充、また學生を中核とする航空要員の養成等に努力が拂はれ、また九月二十一日議會に提出した新規海軍豫算二十七億餘弗の⅔は

航空擴充費である。殊にセヴァスキ少佐(大空軍論者)が空軍第一主義への轉換によつてのみ太平洋制海權奪取が可能であると考へ、それに唯一の對日攻勢の希望をつなぐことは特に注目を要する。

米國の軍需生產狀況を見るに、軍需生產局長ネルスンの誇示する所によると、現在軍需生產は米國總生產の四割を占め、明年中頃には六割に擴張する豫定であり、また大東亞戰開始以來本年上半期における軍事費支出總額は國民所得の三割六分を占める。本年度の軍需生產目標は本年初頭の米大統領の聲明によれば、航空機六萬、戰車四萬五千、高射砲二萬、商船八百萬噸である。これが實施狀況は軍需生產局の發表によれば次の如し。

航空機生產は右目標設定當時精々四萬前後と豫想されたが、現在の增產振では五萬生產は十分可能と豫想され、本年における生產高は一月二千—二千五百から三月三千—三千五百、五月四千、七月五千と發表され、內譯も軍用機七割五分の

目標が八月の生産實績では六割に達した。なかでも大型爆擊機に主力が注がれてゐる。

造船狀況を見るに、本年九ケ月間の造船高は四百六十二隻、五百十萬噸、目標に比し三百萬噸の不足だが、業者の目標『一日三隻』は既に突破された。リヴァティ型船舶(一萬五百重量噸)の竣成日數は百五十日から平均八十日に短縮し、最も迅速な西海岸のカイザー造船所では過去の記錄二十九日を十三日三時半に改める記錄を樹立した。しかも、最近の新造船はこのリヴァティ型に集中してゐる。實際には船舶喪失量をも考慮する要がある。建艦進捗狀況は不詳である。

これ以外の軍需生産は必ずしも豫定近くに至らない。殊に戰車生産では型式變更に伴ふ各種製造設備の改善から生産が一時遲滯したが、中型戰車は既に大量生産に入り、高射砲生産もまた精密製品製造に伴ふ部分品の精密仕上に阻止されてその增産は遲れてゐる。その他火砲類の月産は二千、機關銃は五萬と誇稱されてゐる。

陸軍の整備も軍擴增進に伴ひ相當進捗した如くである。開戰當時の整備兵力二百萬(うち航空部隊五十四)から、年初には本年中の擴張目標は兵力百六十萬、航空部隊八十四に定められ、五月にはさらに三百五十萬增强案に改められ(本年度末現在兵力四百五十萬)、目下これが實現に邁進してゐる。最近大統領は四百五十萬整備可能にして九月末には陸軍兵力四百萬達成を言明した。米國はこれら自國兵力整備のため前記軍需生産の大部分を振向けた。この結果、對英蔣ソ援助のあらゆる宣傳に拘らず、本年六月までに聯合國側に引渡した兵器彈藥類は米總軍需生産の一割二分に達せず、純軍需品目は僅かに十四億弗に過ぎなかつた。

しかも米大統領は明年度七百五十萬の大陸軍建設のため徵兵年齡引下案を議會に提出し、一層尨大な陸軍擴張を企圖してゐる。これはさなきだに僅少な武器供給を一層減少する。聯合各國は『軍事的孤立』に益〻苦しめられるのではないかと

の不安を抱いてゐる。

他方、かく目覺しい軍擴にかかはらず、軍需生産は現在重大な困難に直面してゐる。これは既に七月頃から豫想されてゐた。この結果、一部では政府註文の取消による新設、擴張工事の中止は勿論工場の操短或は閉鎖のやむなきに至つた。それは工場生産力と資材配給の全面的不均衡のためであり、實狀を無視した尨大急激な軍需增産計畫の結果である。現在米國で最も深刻な不足に惱む軍需資材は鐵、鋼、ゴム、錫、ニッケル、アルミニウム、タングステン、マンガン、クローム、マグネシウム等で、このうちでも鐵鋼增産は飛躍的な軍需生産に追隨しえず、相當强い制動作用をなす可能性ありと注意されてゐる。主因は屑鐵不足による製鋼高の減少、軍需生産用鐵鋼の一部を犧牲とする鐵鋼九百七十萬噸增産計畫の實施である。殊にこの後の原因を除くため今夏鐵鋼增産計畫を一部犧牲として軍需增産を敢行したため、需給の跛行狀態は一層甚しくなつた。この他、日本による南方資源の

制壓、國內輸送力の不足、軍需生産局の資材割當を無視する陸海軍の資材獨占、豫想外に急速な軍需産業への轉換等が軍需資材不足の原因に上げられてゐる。勿論ネルスン軍需生産局長官の述べる如く戰時經濟の組織化によりこれらの障害は一部除去されるが依然資材不足は益〻增大する軍需生産を制約すると考へられる。

この上、勞務配置が重大な障害をなす懸念がある。本年九月初の米社會保安局調査によると、一九四二年末の勞務需要は軍隊五百五十萬、産業五千三百二十萬、計五千八百七十萬、四三年末は夫々九百萬、五千三百萬、六千二百三十萬。軍需生産は昨年十二月より本年七月までの間に就業者數を六百九十萬から一千二百五十萬と約二倍近くに、さらに本年末一千七百五十萬、明年末二千萬にと尨大な勞働力を必要とする豫定である。また、軍部は一九四三年末までに一千萬の動員を豫定する。ここに早くも勞務者不足が痛感され、情報によると九月二日付一鐵鋼業機關紙は『動員進展の結果、明年一月末までに就業者の一割二分、同十二

アジア経済研究センター
Japan Center for Asian Historical Materials
http://www.jacar.go.jp/

月末までに二割五分を夫々失ふ』と豫想してゐる。これが對策として軍需工業では八時間勞働制が撤廢され、また大統領は强制勞働制を實施し、勞働力の再調整を行ふであらうと噂されてゐる。

米國はこれらの障害を克服し世界最强大の軍備整備を目指して軍需生產の增强に努めてゐるが、同時に戰費支出の膨脹も著しい。戰費支出額は昨年十二月約十八億弗餘、本年八月約五十二億弗、九月約五十四億弗に累增し、大東亞戰爭開始以來の累計は三百五十億弗餘で、既に前世界大戰の米國戰費總額三百二十億弗を超え、開戰以來十ケ月に米政府に支出權限を與えられた金額に至つては一千四百五十五億弗に達した。この巨額戰費の調達は大部分借入金、國債によらざるをえない。從つて最近米政府負債は月々四十億弗近く增加し、九月末現在九百億弗に上つた。

かかる軍需生產の增强は民間購買力を激增し、本年度國民所得は一千百二十億弗、前年より一割五分增と見積らる。一部は貯蓄されるが、大部分の浮動購買力化は不可避である。他方、軍需生產の增大は當然民需生產を壓迫し、民需用耐久物資の供給は既に一九四一年最高水準の⅔に減退し、今後一層の減少が豫想される。一般大衆殊に農民、勞働者の見越購買と物資出廻不足との不均衡は益々インフレを促進する。

かかるインフレ增進とこれに伴ふ國民生活不安との防止のため、大統領は四月二十七日議會への敎書で生活水準の切詰、利潤及び所得の統制、農產物價格の統制、消費規正、賃銀統制、公債增發、信用制限、增稅等のインフレ防止方針を明かにした。かかる方針を續つて財界、一般大衆の不安は深刻を極めた。米大統領はこれを利用し劃期的な權限を掌握せんと意圖してゐる。殊に九月七日の勞働日には再度議會にインフレ抑制敎書を送り、また同夜爐邊談話を放送した。それらのなかでは、從來と異なり、具體的方策を示し、賃銀及び家賃の抑制、農產物價

統制、増税をインフレ防止の三原則とする以外に、進むで必要あれば大統領自己の責任においてこれを行はんとの斷乎たる意向を示し、農村出身下院議員の强硬反對と勞働組合の不滿とを押し切り、十月四日インフレ抑制法を成立せしめた。一九三三年の農業調整法以來の農業保護政策は今次大戰勃發以來農產物價格を異常に暴騰せしめ、本年五月以降實施の最高價格統制(農產物は除外さる)を事實上無意味ならしめた。賃銀も戰爭と軍需增產との影響で著しく急騰した。勞働組合及び農民が米大統領のニュー・ディールを支持してきた最大の大衆層であつたので、農產物價格及び賃銀の統制は誠に大統領にとり容易ならぬ事業であつた。しかし事態はかかる顧慮を許さなくなつた。

インフレ抑制策實施を目的に經濟安定局(長官は大審院判事ジェームズ・バースンズ)が新設され、また物價統制局長官ヘンダースンをして從來統制より除外された食糧その他(九月二十八日—十月二日の平均最高價に)、賃銀(本年一月一日—九月十五日の最高額に)、住宅賃料(三月一日の水準に)を据置かしめた。また、增税については法人税、消費税の劃期的增徵と個人所得税の免税點引下を內容とする六十五億弗の增税案が議會に提出され、迂餘曲折の後、兩院を通過し、去る十月二十日大統領これに署名して成立した。これら增税の結果、聯邦税、州税、地方税を合せて國民所得の約⅓餘、三百六十五億四千萬弗が租税公課として徵收されると見積られてゐる。しかしこの新增税實施による政府租税收入總額は三百六十億弗に上るとはいへ、近き將來には一千億弗に上ると豫想される歲出には到底應ずべくもない。右增税案の審議終了と共に引續き最少六十億弗を目標とする新增税案を議會に提出する旨モルゲンソー藏相は發表してゐる。

既にインフレ抑制策その他國防對策の實施につき米議會及び輿論は必ずしも强固に政府を支持する譯でなく、資本家、勞働者、農民が夫々自己の利益を固執する現狀である。果してこれらのインフレ抑制策が所期の目的を達成しえようか。し

かし、米大統領は數次に亙る放送において國民の志氣昂揚と犧牲の負擔と積極的協力を要求し、國民の自由意思を無視しても強權を以て戰時體制の強化を圖り、勝利のためには如何なる强壓をも辭さぬ覺悟を明かにした。實に米國の戰爭指導上注目すべき轉換といふべきである。

第五、米國最近の對南米抱込工作

米國最近の對中南米工作を見るに、七月上旬より中旬にかけメキシコに米洲農業會議を開催、食糧增產、同禁輸撤廢の勸告、米洲貫通公路の各國受持部分の建設、發電所增設、ゴム增產、食肉生產振興等の諸事項を含む決議三十八を採擇し、引續き汎米洲農相會議を開催してその實施を協議した。また六月末よりのワシントンにおける汎米金融會議に續き、細目檢討のため同會議代表はメキシコに會合し、米弗闇取引禁壓方策實施を決議した。

昨年設立された汎米商工協會常設委員會は七月中よりのサンチアゴ大會で、南米諸國貿易政策の協調、人造物資製造上の競爭排除、米洲諸國間の送金方法、米洲諸國商工機關の組合組織への再編成等を協議し、殊にウルグアイ代表の提案に基き米洲共通の國際通貨制の確立を決議した。これ米洲諸國通貨を支配せんとする米國の意圖を反映する。ここでチリー代表が米國の樞軸系商社登錄制に反對意見を表明したことは同國の中立堅持を物語り、注目された。

米國はかく種々の汎米會議の開催により米洲一體中南米支配の達成に努力を重ねたが、個別的に各國との通商關係の改善による緊密な支配關係結成をも怠らない。米國は八月ホンヂュラス、英領トリニダッド、ギアナ、サルヴァドル、九月グアテマラ、と各地產ゴム全額買收協定を結び、この結果ゴム協定國はブラジル、ペルー、ニカラグア、コスタリカ、コロムビア、エクアドルを加へ南米十ケ國に及むだ。自國の不足資源の補强と、これら諸國の政治的支配のためである。

殊に米國はブラジルとは八月上旬通商協定を更改、同地產搾油用種子及び織物纖維の對米輸出增大を圖り、八月中旬戰略資源開發のため二千五百萬乃至三千萬弗の借款を供與し、これを以て道路建設、農產物資源の開發、その他大東亞戰で喪失した錫、タングステン、アンチモニー、ゴム、キニーネ等の增產を圖ることとなつた。また米國輸出入銀行はチリー鐵道會社に車輛購入費、その他施設費として五百萬弗の借款を供與する協定を結むだ。また、米國は軍需增加に卽應し從來の棉花減產政策を放棄すると共に、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、コロムビア等中南米諸國產棉花の動員を企て、ペルーと本年產棉花の買占契約を結むだ。なほ、米國は中南米抱込策として在米民需物資製造機械の一部不要分を買上げこれを中南米に賣却する計畫を發表したが、米國內の事情及び船腹關係から見て果して實行不能か疑はしい。

最も注目すべきは新中米公路建設計畫である。グアテマラ、サルヴァドル、ホンヂュラス、ニカラグア、コスタリカ及びパナマの六ケ國との協定に基づき米國は本國とパナマを結ぶ新中米公路完成に邁進し、既設の汎米道路二千哩に聯結する新道路の建設費六億二千五百萬弗を米政府が支出卽時着工することになつた。軍事上經濟上極めて重要な意義を有する。

從來參戰非參戰の岐路に立つたブラジルも米國の壓迫に抗しきれず、八月二十三日樞軸潛水艦によるブラジル船舶の連續擊沈(八月中旬には二ケ月間に五隻、一萬五千噸喪失)を契機に獨伊に宣戰した。これと同時に米國は對ブラジル派兵を發表、九月キューバと軍事協定を結び、七月二日米大統領は中南米諸國に對する法案に署名した。また米海軍長官ノックスは最近ブラジルを訪問し、南米北部及びカリブ海の米軍事基地を視察、歸朝し、ブラジル海軍は既に米國の指揮下に入つた旨十月三日發表した。

今や米國への積極的協力を措むのはア、チ兩國のみとなり、米國の汎米工作は

アルゼンチン、チリーの抱込みに集中された。既にチリーとはリオス大統領を今秋訪米せしめるに成功し、これを機會にチリーを反樞軸陣營に引き込まんとしたが、偶〻十月八日ボストンにおける米國務次官ウェルズのアルゼンチン、チリー非難演説は兩國をいたく刺戟し、チリー大統領は訪米を無期延期した。しかしウェルズ演説は兩國を積極的に支配下に收めんとする强硬な決意の反映であり、同問題を繞り米チ兩國關係は紛糾し、國内的には中立政策に對する反對熾烈を極め、政情騒然として拾收困難となり、十月二十一日内閣解散、『米洲連帶』を標榜する左翼的内閣が成立した。

また、米國はアルゼンチンに對して一方經濟的壓迫を以て、他方經濟的利益を以て汎米ブロックへの引込みに種々手段を盡してゐる。例へばアルゼンチンはゴムにつき東亞よりのゴム輸入杜絶に惱む所から他の中南米諸國にゴムを求め種々と努力を拂つたが、米國側の壓迫妨害で目的を達しえず、殊にエクアドル政府は

一旦賣約濟となつたアルゼンチン向ゴム輸出を米國の壓迫でその輸出許可を取消した。或ひは八月米政府はアルゼンチン國有鐵道發注の客車、貨車計五百五十輛の積出を不許可沒收し、また、アルゼンチンにとり最大問題たる對外貿易に關し獨逸側はニューオルリンズ航路のアルゼンチン船舶に安全を保障したが、米政府はこの航路に壓迫を加えようとしてゐるとも傳へられてゐる。

かくの如き經濟壓迫に平行し、他方では對アルゼンチン石油供給に關し米國、アルゼンチン間に交渉が進められ、或は米大統領はアルゼンチン、チリーと武器貸與協定につき交渉中であり、また米國はアルゼンチンに一億弗の武器貸與協定を締結する用意ある旨の申入を行つた等が報ぜられてゐる。殊に在野黨たる『急進社會黨』(都市の商工業者、知識層を背景とする。農山村殊に大地主の利益を代表する與黨『國家民主黨』に比し遙かに親米的、下院では却つて優勢)に對し米國は陰に陽に各種の手段を通じて米洲ブロック結成工作を怠らず、去る九月二十九

日遂に下院は『對樞軸斷交勸告案』を六十七對六十四を以て採擇した。この案は開期終了で握潰しに終つたといへ、下院に反樞軸勢力が優勢を持することを物語る。なほ一般文化工作として、米財閥ロックフェラーは北米系商社に指命して側面工作を行はしめ奏功し、殊に米國は樞軸諸國との通信杜絶に乘じ書籍、新聞、雜誌或は巡回講演者等を總動員して米英文化及び民主主義普及を名に惡どい反樞軸宣傳を展開してゐる。

既に南米諸國は歐洲市場との交通杜絶によりその主要生產物の販路喪失（米洲全貿易の半分に近い）、とその過剩に惱み、恐慌狀態に近いもの多く、米國の援助以外に殆んど打開の途なく、ここに米國の支配力が擴大する素地が急速に作られ、南米諸國を米國の補給基地化せんとする米國の意圖は着々と成功を收めてゐる。

大東亞情勢

第一、建國十年の滿洲國

大東亞に新しき歷史を創り、全世界に逞しき新秩序建設の炬火を翳げて盟邦滿洲國が生誕してより十年を閱した。その間隆々たる興隆發展に輝く史上未曾有の滿洲國の偉業を眺める時、我等齊しく、感激新たなるものがある。柳條溝に發した一發の銃聲が滿洲事變に發展するや、米英は汎ゆる術策を弄して對日恫喝を反復し、日本に侵略者の惡名を押しつけ、蔣介石政權を煽動したことは周知の通りである。しかし滿洲事變はヴェルサイユ條約により世界支配の野望を逞しうせる米英に對し、日本が初めて反擊の火蓋を切つたものである。米英の自由主義的現狀維持諸國が全面的に阻害し否定せんとしたにも拘らず、日本は斷乎として國策を遂行し、前大戰が生んだ米英支配の牙城たる國際聯盟をも敢然として脫退し、

この世界史の轉換に偉大なる原動力となつた。かくて滿洲事變を契機として獨逸にダンチヒ竝にズデーテン奪回の決意を固めさせた。ここに世界維新戰の烽火が擧げられた。

すなはち滿洲事變は米英を主軸とする世界舊秩序體制を擊摧する最初の彈丸であり、これにつづく支那事變、第二次歐洲大戰及び大東亞戰爭は日獨伊を主軸とする世界新秩序建設諸國の息もつがせぬ追擊戰である。

顧みれば建國當初の滿洲國は、戰亂と張學良の惡政のあとをうけて治安は亂れ文明文化に遙かに遠く、一個の茫々たる大平原に過ぎなかつた。帝國は親が子に對すると同樣の限りなき愛情を注ぎ、幾多の犧牲を拂ひかつ米英側の執拗なる壓迫を退け、滿洲國建設に盡した。斯くて建國十年後の今日、滿洲國はその相貌一變し、諸般の建設は進み、大東亞の東北隅に位する毅然たる近代國家となつた。即ちこの十年の間、險しい荊の道を辿りつつも政治、經濟、文化等各部面に未曾有の發

展をなし、鐵鋼、石炭、電力等の大量生產竝びに食糧の增產確保は我が帝國の大東亞戰爭遂行上の大兵站基地としての使命を十分に果しつつある。またその國際的地位は年と共に昂まり、今や承認國は既に二十ケ國に達せんとしてゐる。これ一に建國の主眼である五族協和の道義世界の創建を列國が認めたものであり、現在我が帝國が現に發揚しつつある八紘一宇の大精神の具體的實例となし得る點で、南方諸域のみならず全世界列國に與へる影響は洵に甚大なるものがある。また一方、滿洲國を基點とする我が北方の護りは今や完璧と言ふべく、ソ聯、外蒙その他北方よりの窺窺だに許さざるの域に達してゐる。建國以來帝國は日滿共同防衛の協定に基き、關東軍は滿洲國軍と協同して北邊の鎭護に挺身しつつあるため、大東亞戰爭を完遂するに當つて何等後顧の憂もない。滿洲事變當初四十萬を算した匪賊は今や一千足らずに減じた。民生も喜び勇んで政府の施策に協力してゐる。

斯くの如く建國僅か十年にして四千三百萬の人口と完備せる近代國家態勢を創

り上げた國家が滿洲國を外にして他に一國でも實在するであらうか。これ正に世界史上唯一の奇蹟的事實であり、滿洲國民がこれを誇り、これを記念すべき理由は卽ちここにあり、また親邦日本が心より慶祝する所以も亦ここにある。

滿洲國が建國十周年記念祝典を擧行するに當り、畏くも皇帝陛下には去る九月十三日建國神廟臨時親告祭を執り行はせられ、國運の隆昌を親しく元神天照大神に御親告遊ばされ、十四日には建國忠靈廟臨時奉告祭を御執行、建國の大業の礎石となつた三萬餘柱の英靈に御拜禮遊ばされたのである。

すなはち滿洲國皇帝陛下には滿洲國の國基益〻固く、國運の益〻興るは、これ天照大神の神庶、　天皇陛下の保佑によるとの御信念あらせられ御躬ら天照大神を奉祀し給ひ、以て國民の福祉を御祈念遊ばされた。斯くして滿洲國の建國精神は惟神の大道は滿洲國永久不動の國本と尊められた。これによる日滿不可分の紐帶は更に兩國國民道德竝びに信念の根本に溯り、一億一心かつ一體不二のものとなり、共同防衛、經濟、金融の一元化等の如き平面的關係から、更に悠久不動の我が歷史を通じて道義の結合にまで到達したのである。

滿洲國がこの十年間努力し來たつた五族協和政策は歐米流の民族自決とは全く異り、人類社會を不必要に混亂に陷らしむる分立抗爭を停止せしめ、かつ滿洲國と謂ふ一政治地域內における各民族をして各々その所を得せしめつつ、共同の最高目標に邁進せしめたのである。從つてこの滿洲國の新しい五族協和の政策は飽く迄日本を指導者として遂行されて行く以上、これによつて大東亞地域の諸民族は直に東亞民族としての自覺を要請され、各々その所を得つつ大東亞建設に挺身するであらうし、そこに皇道精神に溢るる軍事、政治、經濟、文化の諸建設も期待出來るのである。

最後に滿洲國の經濟力を看るに、その生產力の飛躍的增大は洵に驚嘆に値す

る。(第一)鐵鋼生産は産業開發五ケ年計畫當初に比して約三倍餘の躍進を遂げ、鞍山の大製鐵所は設備を完了して大威力を發揮するに至つた。昨年度は萬難を排し全滿を通じて熔鑛爐三基の火入れを行ひ、その後の成績は極めて順調である。(第二)石炭は建國第一年度に比し現在約三倍强の增産となり、年産一千六百萬瓲に達するに至つた。(第三)電力殊に水力發電は滿洲開發において最も誇るべき事業であり、六十萬キロワットの尨大な電力が低廉に供給せられ、かかる所から各種の大企業はこれに伴つて興り、アルミニユームの大增産、或はカーバイトの新規事業は相當の進展をみせてゐる。(第四)製造工業は大飛躍をなし、自動車、車輛、飛行機、兵器その他多數の機械工場が直接間接に軍の指導を受けつつある。(第五)農産物は勞力不足等の障碍あるにも拘らず、國民勞力を動員してこれを補ふ施策が講ぜられ、大豆の如きは減産ではあつたが、集荷を督勵し計畫通り日本に供給し、以て日本の油脂類、肥料、食糧等の不足を援けつつある。

斯く見る時、滿洲國は親邦日本に次ぐ大東亞建設の核心をなすものであり、滿洲國建設十年の成果と經驗は大東亞建設の一個の動力たることを識る。從つて帝國と滿洲國とは愈〻天意を奉じ、更に共存共榮の紐帶を强化して歴史的聖業の達成に邁進しなければならぬ。

第二、支那における治安工作の現況

大東亞戰の輝かしい戰果によつて國民の注意が南方に惹かれてゐる間に支那大陸では從來に劣らぬ雄渾果敢な大作戰が展開されてゐる。北支においては嚴冬から九月までに大作戰のみでも十六を數え、殆んど北支全域に亙り敵蔣共剿滅の鉾が進められた。殊に七月以降の第二・四半期においては、一面、討伐作戰により敵蔣共勢力を逐次剿滅驅逐し、治安圈を年初の二、三倍に擴大すると共に、他方では敵勢力排除の完了した地區の完全治安地區化、固定策が實施されてゐる。固定

策の一としてはトーチカ、遮斷壕が造られ、遮斷壕の總延長は山海關、張家口より寧夏に至る外長城線の長さの六倍、地球圓周の1/4に達するといふ。清郷工作が一地區毎に進められるのに對し、北支の治安強化運動は全北支をその運動範圍とし、運動の進展と共に夫々緊切な新目標を加へてゐる。この運動は昨年三月三十日、國民政府還都並びに華北政務委員會成立一周年記念日を期して初めて全北支に展開された。この第一次目標は『鄕村自衞力の育成強化』『華北の治安は華北人の手で』といふ自覺を民衆に呼び醒した。第二次運動は昨年七月七日より開始、目標は更らに『華北の敵は共產黨』と剿共實踐による北支治安の確保に重點を置き、第三次は昨年十一月一日より開始、目標は『對敵經濟封鎖』、民衆を積極的に對共政勢へと前進せしめ、第四次は大東亞戰勃發後本年三月三十日に開始、『東亞解放』『剿共目標』『勤儉增產』、第五次は十月八日より實施、『華北建設』『大東亞戰完全』『共匪剿滅、思想肅正』『農產確保、物價減低』『生活革新民生安定』を合言葉に展開

されてゐる。この運動は、一億官民が老若男女、職業貴賤を問はず敵匪に對し一體感としての剿共思想の育成强化を目指し、大東亞戰の進展による民心の自覺と反省は愈〻この運動に生氣あらしめ、その成績は日を重ぬるに從つて顯著となりつつある。これにより最も痛烈な打擊を蒙るのはいふまでもなく中國共產黨で、その得意のゲリラ戰も漸次その活動の餘地を奪はれてゐる。これは高粱繁榮期の敵蠢動件數が本年七月には昨年の半分以下、八月には六、七割に減少した事實に反映してゐる。この治安工作は軍事、政治、經濟、思想の各方面に成功裡に進捗してゐる。また我が方に對する民衆の積極的協力の增大、匪區よりの歸順者の增加等がこの間の事情を最もよく物語つてゐる。事變勃發五年、北支の治安は躍進的に改善されつつある。

飜つて中南支を見るに、五月中旬より三ケ月に亙り浙江、江西兩省において大規模な作戰が展開された。豪雨と大洪水と猛暑に加ふに複雜な沼澤地と峻險なる

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

山岳地帶等言語に斷する自然の障害を克服しつつ敵第三戰區の戰力、抗戰施設を徹底的に擊滅し再起不能に陷らしめた。この結果、ビルマ遮斷後辛うじて殘された奥地と海岸との聯絡路は完全に封鎖され、また同地方を基地とする對日ゲリラ空襲の夢もはかなく破られた。目下次期作戰への準備のため有利なる態勢に戰線を整理中であるが、從來とは異なりこの場合積極的な出擊が餘り見られず敵側抗戰力の低下を思はしめる。中支における治安工作は北支の治强工作と異なり、肅正軍事に膚接して一地區づゝ行はれる。昨年五月國民政府は清鄉委員會を結成し同七月一日より具體工作を開始した。その第一着手は江蘇省三角地帶で、蘇州を中心とする地區より開始され、江陰、無錫一帶に及び、既に江蘇第一、二、三期地區の清鄉を完了した。本年七月一日から太湖東南地區に着手、第一期地區は概ね完了、第二期地區に進むである。また八月一日以降百年來外國の經濟侵略據點であり、二十年來共產思想の策源地であつた上海地方に敵性拂拭の清鄉工作が展開されてゐる。

この工作には指定地區に國民政府及び國民黨の力を滲透せしめると共に戶籍調査、保甲確立、壯丁訓練、警察整備等を行ひ、經濟的には清鄉合作社を確立し、また稅制整理をも斷行してゐる。清鄉工作に注意すべき點は汪主席以下「清鄉は清心より始まる」と强調し、工作員幹部には『純潔熱烈な青年』を充當する建前をとり嚴選し、他方、地區內の汚吏を清掃し、以て當該地區を治安、施政、民主、民心の各方面より見て完全な『模範和平地區』たらしめんとしてゐることである。

以上、治强工作といひ、清鄉工作といひ、何れも新支那建設に當る爲政者が基礎的組織の確立に注目して、ここより和平勢力の擴充を圖らんとする意圖を反映する。この結果國民政府治下の民生が著しく改善せらるるとき、敵地區民心に與える影響は極めて甚大であらう。

第三、南方諸地域の建設狀況

南方諸地域は一應戡定を終り、建設時期に入り政治、經濟、文化等の諸分野で目覺しい進捗が見られる。次に南方諸地域最近の建設狀況を概觀して見よう。

〔ビルマ〕全土戡定後すでに四月、中央地方各行政機構編成も大體終了し、バ・モ長官は我が國と協力して着々ビルマ復興の實現を圖り、最近行政機關代表團を北部ビルマに派遣、各都市村落の復興狀況視察と諸種族の融合、啓發指導にあたらしめた。

宣傳機關としてはラジオの街頭進出、巡回演劇團數百組の地方派遣、新聞の統合による行政機關のビルマ諸機關紙の發刊等が實現され、民衆の時局認識啓發に盡してゐる。

經濟復興も我が軍政下で種々の障害を排し着々進捗してゐる。本年五月一日飯

田最高指揮官は軍令を以て從來のルーピー、軍票の等價流通を正式公告した。皇軍に對する絶大なる信頼は軍票の流通を擴大し、勞力、資料の活用を目的とする我が通貨工作は經濟建設を著しく有效ならしめた。金融方面ではビルマ金融界を牛耳つてゐた印度銀行、印度貯蓄銀行等敵性銀行二十三が閉鎖され、正金銀行及び南方開發金庫が專ら邦人商社の一般企業、重要鑛業開發事業（一部軍直營のものを除く）に對する金融に當つてゐる、更にビルマ資本によるビルマ銀行の設立が各方面から要望され、軍政監部では近く最初のビルマ系銀行を設立することとなつた。

現在物價は戰前に比し相當昂騰してゐるが、これは物資不足でなく、戰後の交通機關及び運輸力の制約に基づく物資偏在によるものである。軍政部では配給機構の整備と交通機關の運輸力增强に力を注ぎ、產業部では目下民需物資の鐵道輸送に軍當局の協力を求め、補助手段として道路輸送力活用のためトラックに燃料を割り當ててゐる。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

更に自給自足達成のため種々の產業施設が行はれてゐる。棉花については現在生產額の約三倍增產計畫を建て、最も必要な纖維製品の充足を圖り、またジャワ糖輸入計畫と共に國內製糖工場の操業開始を準備してゐる。この他邦人及び印度人所有の造船所、製材所、搾油工場、自動車修理工場等の產業機關もすでに操業を開始した。しかしビルマ人の家內工業は現在まだ活動して居ない。

〔ジャワ〕軍政監部では八月八日全ジャワを十七州、二侯地、一特別市の行政區劃に分ち、地方行政組織を確立した。これに引續き、今中央行政機構の編成を完了、九月二十三日附軍政當局談を以てこれを發表した。すなはち中央本部は軍政開始當初から存續してきた總務、財務、產業、交通の四部の外に過般新設の司法、及び十月一日新設の情報部の六部からなり、外局として陸輸、通信兩總局の現業機關及び宗務部、會計監督部を擁し、更に近く警務部及び外局として放送管理局が設置される豫定である。かくて中央機構は右の七部、五外局を中核とし、各種の公社を監督下に置いて新ジャワ建設に邁進することになつた。すでにこれら機關に携る文官も赴任し、軍政は全く第二期に入つて部隊長の軍政から文官知事の統治にと移行しつつある。

中央行政機構の確立と共に建設は本格的段階に入り、產業、經濟、財政、交通、教育、衞生の各部門の活動もいよいよ活潑になつて來た。ことに農業、工業の技術員養成が產業建設に最も要求され、ジャワ軍政教育局では本年十月十六日より小學校卒業の學歷ある十五—二十二才の青少年を全島から選拔し、バタビヤ、スラバヤ、バンドン、スマラン等七ケ所に農民道場を新設し、邦人專門家を教師として原住民農業指導者の積極的育成を圖ることとなつた。この外、本年八月一日バタビヤに原住民技術員養成のため技術員養成所が開かれ、目下二百七十名の生徒が理論と實際を每日勉學し、新生ジャワの農工業發展に貢獻せんとしてゐる。

ジャワ全島の陸上交通は敵の組織的な橋梁破壞によつて一時不通となつたが、

最近は軍政監部交通局以下各關係當局の非常な努力と原住民、華僑の協力により殆んど戰前に近い狀態に回復した。しかも從來の無統制な運輸に代り陸輸總務局統轄の下に一元的に統制ある運營が行はれ、島内各種物資の輸送は漸次圓滑となつてゐる。

其他衛生機關として原住民の健康增進のため軍政監部はジャワ島内各地に病院、診療所を增設してゐたが、最近衛生局を衛生班と改め本格的施療業務に着手した。

〔マレー〕軍政部ではすでに各州知事の任命を終了し、地方行政强化のため地方長官會議を催し、具體的施設方針に就き檢討を加へ漸次實行中である。刻下の急務は食糧增產にある。大東亞戰爭勃發までマレーの經濟は英金融資本主義の支配下にあり、ゴム栽培と錫採掘がその主要產業をなし、食糧生產は殆んど全く等閑視され、食糧の大半はビルマ、泰、佛印から輸入し、英國人は食糧供給を以てマレー住民の生殺與奪の權を掌握してゐた。しかし今や英國の桎梏を脫し食糧國外依存主義から自給自足主義への轉換に眞摯な努力が拂はれ、食糧增產計畫は着々效果を擧げて居る。殊にケダー、ネグリセンビランの各州では食糧增產はかなり進捗してゐる模樣である。

〔比島〕日本軍司令官の命によりヴァルガスを首班とする中央行政機關はすでに設置され、殘存機關を綜合統一して我が軍政下に民族統治の任に當り、更に、比島軍監部の下にマニラ以下五ケ所に支部をおき各州の行政を指導してゐる。これと共に巡兵隊の組織により民衆の平和な生活を確保し民衆と行政機構との緊密な連繫に當つてゐる。比島の平和と治安秩序は漸次回復されてゐる。比島の財政狀態は行政機關成立後七ケ月にして早くも健全財政の域に達し、七、八、九の三ケ月の豫算は四十二萬ペソの剩餘金を計上した。比島の華僑も皇軍の威武の下に全く歸服し、比律賓華僑協會を設置し、援蔣行爲の停止、日本の比島經濟建設計畫への

協力を誓約し、皇軍に對し二千萬ペソの獻金運動を開始した。

地方における交通、通信も概ね回復し、國道上の破壞橋梁は修理、架設を完了し、鐵道も軍の努力により戰前の狀態に復舊、すでに一般營業を開始し、治安產業開發に好影響を與へてゐる。また管內各州の郵便局も開設され一般に利用せられてゐる。

次ぎに工業狀態を見るに比島の工業は米國貿易政策の犧牲となりその發達程度は極めて低い。今日現地自給が强く要請されるので、軍政當局では輕工業の設備、增强に重點を置き目下工業生產力增强計畫を進め、工業の自給自足を圖つてゐる。椰子油、搾油、紡績、鐵工、造船等マニラ市及びその附近の各工場は六、七月頃から一齊に操業を開始し、既存工場も漸次回復しつつある。

戰後の食糧問題も漸次緩和され、着々成功の域に達するものと思はれる。すなはち各地方への米配給は順調となり、殊にマニラ市においては隣組制によつて配

給し、多大の效果を收めてゐる。また當局の闇取引、暴利取締が徹底し、生活必需品價格も漸次低下した。また、本年七月一日には漁業組合が結成され、その後マニラ及び地方の魚類出廻りも好轉した。農村においては避難民は復歸し空地利用の野菜栽培、甘庶畑の轉作など極力食糧增產に力を注いでゐる。其他食糧增產運動に對する一策として農林學校の再開を準備、近日中に開校を見る筈である。コブラの買收實施は戰火のため沈滯した農村經濟を沾し活氣を呈したが、更に軍政監部では比島內の纖維資源獲得のため棉花と苧麻の增產計畫を樹てた。前者の機關として日本棉花栽培協會の支部の事業をも兼ねる獨立の比島棉花栽培協會を設立し、棉花奬勵に乘出した。後者の實行のため目下擔當業者、開發地區の決定等諸般の準備を進め、近く計畫が發表される筈である。その他軍政監部產業部を中心に葉煙草の黃色種への轉換準備が進められ、四年後には二萬五千町歩が轉換を了する事になつてゐる。

文化革新も着々具體化され、米英的思想の根絶、盲信的な米國式在來教育よりの解放、東洋人種の使命とその矜持との自覺、質實剛健なる精神教育の普及を眼目とする。このため新比島建設の第一歩として日本語とタガログ語による教授を實行し、更に本年七月二日軍政令を以て爾今比島における公用語を日本語、タガログ語とする旨指示した。また新比島文化建設懇談會設置が提唱され、本年九月十一日第一回懇談會が開催された。

小學校はマニラ、ルソン島内各州所在のものは本年八月一日から再開され、その數百に上るが更に多數近く再開の豫定である。また、行政機關教育厚生部では比島青少年の職業指導の強化に着手するに至つた。

〔佛印〕皇軍の平和的な佛印進駐後二年になるが政治、經濟、文化の各方面で益、相互提携の實をあげつつある。殊にその文化面において緊密の度を増した。ハノイを中心に日佛印間大學教授、學生の交換が行はれ、日佛印共同編輯雜誌の發行準備、日佛印文化會館建設準備も進められ、この秋には東京とハノイで江戸文化とクメール文化の交換展覽會も開かれた。ラジオは毎週一回東京との交換放送を行ひ、皇軍將兵の聲や安南音樂を日本に送つてゐる。映畫は軍報道部、大使府が日本の文化映畫、ニュース映畫を上映したのを初め、佛人、華人の映畫劇場では毎月日本劇映畫一本、ニュース映畫二本が上映され、安南人、カンボヂヤ人が押しかけてゐる。佛印の各新聞雜誌は日本の戰況寫眞の掲載につとめ、軍報道部、大使府主催の寫眞展覽會はハノイ、サイゴン、プノムペン等の都市では盛況を極めた。本年三月佛印はヴィシー政府を動かして佛印の學校令を改正し日本語を佛印各學校の正科とし、ハノイで一ケ所、サイゴンで二ケ所の日本語學校が開かれた、これは來年から各學校に配屬する日本語教師の養成のためである。この外、サイゴンには我が軍報道部が報道業務の餘暇をさいて開設した日本語學校があり、何れも盛況を呈してゐ

る。

第四、印度反英抗爭の發展

印度會議派領袖カンジー、ネール、アザット等の逮捕を契機に勃發した印度反英抗爭は既に二ケ月餘を經過し、英政府は終始斷壓政策に一貫したが、騷擾は何等緩和の傾向を示さない。英印政府の嚴重な通信統制の間隙を洩れてくる斷片的な情報から見ても印度内の騷擾は益〻激化してゐる如くである。

從來英國は印度國民運動に對し彈壓と懷柔の兩政策を巧みに併用し、國民運動の退潮或は英國の國際的地位の昂揚等の時期を利用し彈壓政策をとるのを普通とした。しかし、今次の騷擾に際しては英國側は逼迫した國際情勢に壓されて、彈壓と懷柔とを交互に使ひ分ける餘裕を持たなかつた。今春クリップスが印度指導者に提示した案は印度を東亞に對する反攻據點として確保しようとする英國としては譲歩し得る最大限の提案であつた。從つて印度指導者側がこれに滿足せぬ以上、英國としては彈壓以外に施すべき策を持たなかつた。國民會議派領袖との交渉決裂後における彈壓は實に豫定の自明な處置であつた。

英國としては出來うる限り謀略的懷柔策による危機の切拔けを配慮し、ボムベイ會議の最後的な反英決議まではあらゆる間接的手段を以て反英氣勢の削減に努めてきた。しかしボンベイ會議の强硬な反英決議は英國をして遂に最終の手を用ひざるをえなくした。

先づボムベイに反英騷擾が勃發し、ここを中心に擾亂は全印度に擴大した。印度事務相アメリーは當初（八月九日）『警察と裁判所とでこれを片附ける』と豪語し、その後事態の好轉を内外に公表してきたが、遂に九月二十九日彼は『印度問題は甚だ憂慮すべき狀態にあり、將來の見通しは殆んどつかない』と悲痛な告白をなさざるをえなくなつたほど騷擾は激化した。

現在の國際情勢に直面して會議派領袖の反英決意は極めて堅くあつた。英國側は、デモクラシーの點では英印地盤を共通にし、今日の如き樞軸の脅威を前にすれば、小數指導者を除き、印度大衆が積極的に英國の活動を妨害するとは考へなかつた如くであつた。しかし指導者監禁後事態は全く豫想を裏切り、ガンヂーの從來指導せる如き消極的な非服從、非協同、非暴力の方法を越えて、今回の暴動は鐵道、電信、電話、郵便局等交通施設の破壞から官公衙、工場等の破壞へと積極的な暴力抗爭に發展し、武裝民衆と警察軍隊との衝突が各地に瀕發してゐる。十月八日英下院における印度事務相アメリーの極めて內輪な報告によると、死者總數約八百五十、負傷者約二千(このうち政府側の死者六十、負傷者六百五十)である。一方、ビハール、聯合州東部の鐵道襲擊で同方面の列車は數日間運轉不能となり、同地方は外部から數日間孤立したのみでなく、さらに相當期間ベンガル地方と北部印度或はマドラスとの聯絡は杜絕した。九月十四日印度下院における

各委員の報告によると鐵道の損害は優に七十五萬磅を超え、郵便局襲擊五百五十、うち燒失五十三、被害甚大なるもの三百、電話電信線の破壞は無數であつた。ここに最も注目されるのは、交通機關に對する襲擊が各地同時に發生せること、即時準備し難い特殊武器を使用すること、暴徒が技術的知識を有する證據あること、被害地域と目的物とが戰略的重要性を持つこと等で、今次反英抗爭は決して自然發生的なものではなく、極めて組織化された指導の下に展開されてゐると考へられてゐる。

暴動の影響は經濟界にも深刻な打擊を與えた。全印產業の八割を占めるベンガル州に最も熾烈を極め、各地工場に罷業勃發し、生產は半分以下に低下した。印度最大の製鐵所タタその他重要工場は既に八月中旬以來全く休業し、インド國防產業に及ぼす影響は深刻である。これは獨り英國のみならず西亞、阿大陸に作戰中の米英軍に重大な障害をなしてゐる。印度の製鋼能力は年產一五〇萬噸前後に

すぎないとはいへ、スエズ以東に寄るべき基地が他にない以上、殊に遠距離海上輸送の困難な今日、その影響は無視しえない。

印度は東洋における英勢力圏の中樞をなし、年々一億五千萬磅の貢物を英國に給する重要投資地でもあり、また近代英帝國發展の母胎でもあつた。從つてこれが英帝國よりの離脱は英本國にとり獨り印度のみならず西亞、東阿諸利權、勢力圏の喪失を暗示し、政治的、經濟的に何物にも代へ難い犠牲である。英國は果して容易にその支配を印度人に返還するであらうか。武器なき印度の獨立解放は今後甚しい苦難の途を覺悟せねばならないであらう。

國内情勢

第一、大東亞省の設立と行政の簡素强力化

南方占領地域統治の要請から發足した行政簡素强力化は、各省、獨立官廳、道府縣、市町村等における減員と同時に機構の簡素化を斷行するに決し、更に發展して全般的な行政機構の改革となり、九月一日の閣議で大東亞省設立の決定をみ、同十一日の閣議で大東亞省官制案要綱その他關係勅令案要綱の決定を見、十一月一日より實施されるに至つた。各省の簡素化ですら多年の懸案であり、この解決は東條内閣の强力な政治力と英斷とによるものとして各方面から讃へられて來た。更にここに拓務省、興亞院、對滿事務局、外務省の東亞局、歐亞局、亞米利加局、南洋局を一括廢止し、これらを統合して時局に卽應する大東亞省の新設を見たことは、關係部面が複雜多岐を極め且つ執れも永い傳統と歴史を有するものの、嚴然たる時局の要請竝びに首相の所信斷行に對する決意と斷乎たる措置とがあつたためである。

滿洲事變を契機とし、特に支那事變以來大陸に對する政務機關は增加し、かつ大東亞戰爭の勃發と嚇々たる戰果によつて大東亞地域に對する政務は一層廣汎

多岐に亙り、施政の機能が阻害されることもなしとしなかつた。從つて戰爭完遂と一體不離の關係に立つてこの大建設を急速堅實に推進する必要が痛感された。令や大東亞建設の企畫及び政務實施に當り從前の關係各機關を統合一元化する機構を設け、統帥部と愈〻緊急に策應協力すると共に、外務省とも渾然一體關係において外政の運用を圖り、强力果敢な政策を施行せねばならない。かかる緊切な要請に應じて玆に大東亞省設置を見た。これによつて內閣は更に强化され、大東亞地域の政務は迅速適確かつ强行的に遂行されるであらう。かくて戰爭完遂への國內體制は整備し、大目的達成のため官民一致して邁進する決意が更に固められた。

さて大東亞省の部局構成に關して見るに、總務局のほかに滿洲、支那、南方の三事務局を設置、地域別による部局の配置がなされた。大東亞大臣の權限下に置かれる地域が滿、支竝びに南方全地域を包含する大東亞地域として範圍が劃定され、かくて大東亞省の部局の構成もこの趣旨から滿、支、南方と地域別に官制上に表現され、現地機關との連絡調整を密接、迅速に行はしめる用意をした。このことは最も注目すべきである。獨立官廳たる關東局竝に拓務省所管の南洋廳の事務は大東亞大臣の統理下に置かれ、關東局は滿洲事務局の、南洋廳は南方事務局のそれぞれ管轄となつて從來通り存續する。これらの官制上の特徵に見られる通り、大東亞地域に關して地域別の統一行政を執行すべき機關たる特性を明確にすると共に、從來外務、拓務兩省その他に屬してゐた事務を統一しかつ省の行政機構を著しく簡素化した點は我々の齊しく注目するところである。すなはち外務省の部局は、このたび政務、通商、條約、調査の四局となり、劃期的な簡素化が行はれ、從來の外務省機構と比較して東亞、歐亞、亞米利加等の地域別の局名が全然なくなつた。嘗つて外務省には明治二十四年に設置され大正九年に廢止された政務局があつたが、今回この局名が新發足の外務省に復活したわけで、從來歐亞

局、亞米利加局等地域別に管掌されてゐた事務は政務局の課に分擔されることになり、全體として極めて簡素でかつ有機的、能率的な機構の確立を目指した跡が窺はれる。

また大東亞省の管轄外なる內地、朝鮮、臺灣、樺太の行政的關係も確定され、內務大臣は朝鮮、臺灣、樺太の事務の統理にも任ずることになつた。抑、外地における行政の目標は一視同仁の　御聖旨に基づき內外地の渾然たる融合を實現するにある。今や大東亞地域は日々擴大し、戰爭完遂のため國家總力を最も有效適切に發揮せねばならない。この時に當り、國政運營を從來の如く區別するのは今日の內外地行政の實情からみて適當とはいへず、食糧、交通、鑛工業をはじめ各種政策に關して內外地行政の一元化は久しく要望され、今回の新制度によつてこの要望は全面的に達成された。無論朝鮮も臺灣も內地と全然同一視することの出來ぬ特殊性を持つて居る以上、總督政治の建前に變動を來たしたわけではない。

しかし朝鮮、臺灣を內地に準ずるものとしてこれ等の間に行政機能の一貫性を可能ならしめたことは、正しく、時代の然らしめたものと言ふべきであらう。また明年度からの樺太の內地編入は殊に至當の措置である。

されば大東亞省と他省との關係が今後密接な連絡協調の上に持續されるとき、內閣及び在來の各省は當然、內、鮮、臺、樺の地域のみを對象とするのでなく、廣く大東亞全地域に亙る政治、經濟、文化の綜合的企畫と實施に當ることとなり、大東亞共榮圏の一元的施政は燦然としてその光輝を放つであらう。

大東亞省官制は次の通りである。

一、大東亞大臣の權限は左の如し

イ、大東亞大臣は大東亞地域(內地、朝鮮、臺灣及び樺太を除く、以下同じ)に關する諸般の政務の施行(純外交を除く)、同地域內諸外國における帝國商事の保護及び同地域內諸外國在留帝國臣民に關する事務並びに同地域に係る移

植民、海外拓殖事業及び對外文化事業に關する事務を管理すること
ロ、大東亞大臣は關東局及び南洋廳に關する事務を統理すること
ハ、大東亞大臣は第一項に規定する事務に附き大東亞地域に駐在する外交官及び領事館を指揮監督すること
二、大東亞省においては陸海軍に策應協力するため大東亞地域內占領地行政に關聯する事務を行ふものとする
三、大東亞省には左の四局を置くこと
總務局、滿洲事務局、支那事務局、南方事務局である。
爾來この大東亞省設置並びに內外地行政一元化に關する官制案要綱の御諮詢方を樞府に奏請中であつたが、樞府においても戰時行政の確立こそ大東亞戰爭完遂のための時局的要請に基く喫緊事なることを諒とし、約一ケ月半に亙り、審査委員會を開催、愼重審議を加へた結果、十月二十八日樞府本會議において全御諮詢案件を可決し、茲に十一月一日を期して關係諸勅令を公布卽日施行し、大東亞省の設置を始めとして大東亞建設に卽應すべき强力なる戰時行政機構の劃期的編成を見ることとなつた。

されば政府としては今次大東亞省の設置に依つて陸海軍との連繫協調を密にすると共に、同省をして純外交を除く全東亞の中樞的行政機關たらしめ、滿、華、泰、佛印等の盟邦諸國更にその他の大東亞諸地域に對する大東亞建設諸政策を一元的に遂行し得る强力なる態勢を整へると共に、內外地行政の一元化によりもつと神速果敢なる行政の運營が期待されることとなつた。

第二、學制改革

大東亞戰爭を完遂し大東亞建設の大業を達成するためには、その中核體たる皇國民が智德、識見において卓拔すると共に剛健なる身體を保持することが根本的

要件であること言ふまでもない。政府はこの點を特に留意し、文教の刷新と國民保健の增進を喫緊の急務として、これが適切なる方策の實現を期すべく、鋭意努力しつつある。

現下皇國教育の根本義は國體の本義に則り教育に關する勅語を奉體し皇國民としての自覺に徹し肇國の大精神に基く大東亞建設の道義的使命を體得せしめ大東亞に於ける指導的國民たるの資質を錬成するにある。これがため皇國民としての生命の源泉たる我が國歷史と傳統に基礎を置いた確固たる皇國史觀を確立徹底することは文教刷新上の最も緊要なる時務とされてゐる。

昨年實施された國民學校制は、實に皇國の道に則つて初等普通教育を施し國民の基礎的錬成を爲すを目標とするものである。國民學校教育はわが教育の重點であり、その振興に向つては最大の努力を拂はねばならぬ。從來往々見られる如く自己の子弟の教育を任せながら學校の教師を輕んずるもののあるが如きは、皇國國民學校教育を根底から破壞するものと言ふべきである。教育者を尊重し、かつ教育者をして皇民錬成の信念に燃え、教育者としての自尊と矜恃の心を盛んならしむることが教育振興における極めて重要なことである。過般閣議において決定された師範學校改善要綱によれば、昭和十八年度より師範學校を道府縣より移管して官立とし、同時にその程度を專門學校に高めて克く皇國民錬成の重責に任ずべき人物の錬成を期し、これが諸般の準備を進めてゐる。

さて今回大東亞戰爭下緊急の要請に卽應、教育の劃期的刷新と關聯して學制改革の眼目たる中等學校、高等學校高等科及び大學豫科の修業年限短縮を斷行し、更に教育の根本的刷新充實と學術文化の高度の進展を圖るため必要なる措置を講ずることとなり、去る八月二十一日の閣議においてこれが要綱を決定した。左にその要綱を示す。

一中等學校、高等學校高等科及び大學豫科の修業年限短縮に關する件

一、方　針　學校教育を簡素にしてその充實を圖り訓練錬成を完からしめもつて學徒の實務に從事するの期を早からしむると共に、學術文化の進展を圖るは國家不斷の要請にして、大東亞戰爭の完遂、大東亞建設の實行に伴ひ愈〻切實なるものあり、よつて教育の劃期的刷新充實を圖り、これと不離一聯の關聯において中等學校及び高等學校の修業年限短縮を實行せんとす

二、要　領

（一）教育の根本的刷新充實を圖り中等學校の修業年限は四年とし高等學校高等科（大學豫科を含む）の修業年限は二年とす

（二）右年限短縮は昭和十八年度入學者よりこれを適用す

（三）教育の根本的刷新充實を圖るため必要なる措置を講ずることとし教科の刷新、教授力の充實、訓育を徹底すべき施設の充實、教育諸施設の整備擴充、教育者の確保等に關する具體的方策については別途これを決定す

（四）學術文化の高度の進展を圖るため最高の學術研究制度の劃期的刷新等必要なる措置を講ずることとし、その具體的方策については別途これを決定す。

外地は右に準じて修業年限の短縮を行ふ。

右の如く現下の狀勢は一日も早く青年を實際活動に動員すべく要求して居り、文教の重要性を認識しつつこれが國家要請に應へるために當局は高等學校及び中等學校に年限短縮の措置を講じたのである。從つて教科の刷新、教授力の充實、訓育、教育諸施設の整備擴充、教育者の確保等は、畢竟永年に亙る米英流の教育制度を一擲し、我が國教學の本義に則り、大東亞戰完遂に絶對必須なる劃期的皇國教育の確立を期し、大東亞の指導者として遺憾なき皇國民を養成せんがためである。

最後にかかる學校教育の簡素化に併行し、學術文化の高度の發展を目指して大學院の如き高度の學術研究制度の整備充實を企圖せることは、國家の不斷の要請

に基くもので當を得た處置ではあるが、これを議會に更に全般的に眞に日本的學術文化の建設に挺身し、高度國防國家體制を愈、鞏固にし、以て八紘一宇の大理想顯現に邁進すべき完全無缺なる學制刷新を實踐强化しなければならぬ。

第三、産業統制の進展

重要産業統制會の第三次指定は八月四日の閣令を以て公布、即日實施された。今回の指定は輕金屬、化學工業、ゴム、皮革、油脂、綿ス・フ、絹人絹、羊毛、麻の九業種である。右のうち纖維關係統制會の構成については、斯業の機構が尤大複雜であり資本關係も錯綜してゐるために各種の提案が行はれ、就中綜合單一制か複數併立制かが問題の中心とされた。結局現實的な立場から前記四統制會に決定したが、纖維産業全體としての綜合的運營を期するためには四統制會及び纖維製品配給協議會を以て別に纖維統制協議會を設置することとなつた。油脂工業と化學工業は當初所管問題について商工、農林兩省の見解が相違したが、前者農林關係の原料部門は別に統制會社を設立し硬化油以後の製造部門について統制會を組織することとなり、後者は統制會内に化學肥料部會を設け化學肥料に關する農林大臣の權限を明確ならしむる申合せを行つて決著した。かくして昨年十月第一次指定の鐵鋼、石炭、産業機械、電氣機械、精密機械、車輛、自動車、セメント、鑛山、金屬工業、貿易、造船、鐵軌の各部門(鐵軌のみは本年四月指定)と相まち、今次指定を以て重要産業の大部分を網羅することとなつた譯である。

重要産業の生産及び配給に關する綜合的統制指導を目的とする統制會に對して、その機能を最高度に發揚せしむるため官廳權限の委讓が或る程度行はれることとは當初より想定された。その内容は政府の基本計畫への參畫に關する實質的權能と認許可權及び命令權の委讓を含む法令上の職權とであつて、前者は一般行政上の運用においてその程度こそ異なれ既に實行に移されてゐる。後者については

第一次指定の鐵鋼統制會以下十一統制會(造船を除く)及び鐵軌統制會に對し(イ)生産に關する統制指導上必要な職權(ロ)生産資材の配分に關する統制指導上必要なる職權(ハ)生産品の配給に關する統制指導上必要なる職權(ニ)企業整備の促進上必要なる職權等を若干の除外例を附して委讓することに決意され、近く右勅令の公布施行を見る豫定である。なほ大藏省の金融關係、厚生省の賃銀勞務關係等は除外されたが、今後可及的速かに權限が委讓される方針である。この委讓により統制會の育成强化に重大な效果が與へられるものと考へられる。

第二次指定に包含される豫定であつた倉庫業は、これと密接に關聯する陸上小運送業、港灣運送業が何れも國家管理に移されてをり、かつ統制會としては經濟行爲を行はぬ立前から營團的形態に進むのではないかとも見られる。この統制會と營團との關係については、貿易統制會の營團化も一部では云々されてをり、多くの問題を含んでゐるが、これら二、三の特殊事情によつて統制會本來の任務と性格とを沒却することは不當であらう。ともあれ官廳權限の委讓によつて統制會の活動は新生面を開くことと期待される。

第四、重要物資の生産增强

直接軍需乃至生産擴充部門の基礎資材たる金屬及び石炭の增産が焦眉の急務たることは自明であつて、刻下の事態よりすればこれがために他の比較的不要不急の産業が犧牲に供せらるることも寔に止むを得ないのみならず、價格、勞務等に關する重要國策とも當面併立し難い場合をも想定して置かねばならぬ。しかも巨大な戰時需要の前には、大東亞戰以來の積極的增産態勢もなほ一段の强化を必要とされ、輸送、勞務等の關係に多くの障害を前提せねばならぬ以上、前途決して樂觀を許されない。左に若干重要物資の生産事情を概觀する。

〔鐵鋼〕 は海南島、中支等の鑛石によつて資源の點は何等の不安も無いが、輸

送圓滑化のための船腹の確保が依然問題であり、更に製鐵能力の擴大についてもなほ果すべき多くのものがある。海上輸送力の增强は更にこれを徹底せしめることが計畫されてゐるが、他面、內地鑛石の增產にも期待される處が少くない。

輸入屑鐵に對する依存を脫して鑛石製鋼法に急速に移行せる過程において、製鐵事業の經營效率は若干低下の傾向を辿らざるを得なかつた。これは鑛石、副原料及び骸炭の品位低下による製銑能率の低下の外に、澎大なる未稼動資本の壓迫に原因する。特に銑鋼一貫作業會社はここ兩三年國策上から相次いで熔鑛爐の建設を行つて來たが、その竣工に長期を要しかつ建設費の增嵩著しいため、未動資本が拂込資本の二〇——四〇%を占むるに至り、その負擔は著しくなつた。かくて製銑原價の昂騰は公價を割るに到り、自家製造銑を使用する一貫作業會社の經營は他の平爐、壓延會社等に比して著しい不利を生じ、鐵鋼增產の障害となつた。これに對して昨年末から國庫補償金の交付が行はれ、本年三、四月締切のこれら

會社の決算は前期に比し好轉を示してゐるが、生產コスト割りは現に各種鐵鋼について見られるのであつて、鐵鋼增產完遂のために價格差の適正化と竝んで、生產費を基準とする新價格の設定を要望する聲が高い。

〔石炭〕 昨年度九月以降の出炭高は漸次好轉したが、その後依然たる勞力の拂底と輸送の制約とによつて本年度上半期の成績は必ずしも充分ではなかつたと見られる。しかも近來炭質低下の傾向があり、灰分多き石炭の輸送によつて輸送力を消費することが多いので、過般六、七月に亙つて選炭强調期間が實施された。

輸送の不圓滑は一時北海道その他一部に貯炭高を激增せしめ、出炭を抑制する域にまで達したと云はれ、これに對して陸上運輸の可能な常盤炭、宇部炭の增產が積極的に進められた。下期石炭對策においても引續き九州、山口、常盤炭の增產に重點が置かれ、また戰時陸運の非常體制として內地沿岸海上輸送を極力轉移せしむべく、當面石炭輸送を主眼として逐次鐵鋼その他重要物資に及ぶこととなつた。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

勞力關係は女子入坑制限の緩和、企業の整備統合による餘剩勞力の配置さらに七月以降の短期勞務者による勤勞報國隊の組織等により難局を打開しつつあるが昨年十一月を一〇〇とする內閣統計局の石炭鑛業延就業人員指數は一、二月各一〇六、三、四月各一〇五、五月九九を示した。青壯年の轉出による炭礦勞働者の質の低下も看過し得ない事實である。

炭礦業においても生產費の增嵩は著しく、各種の抑制策にも係はらず年々昂騰してゐるといはれ、一般に石炭會社の經營狀況は芳しくない。コスト高による採算割りに對しては從來の補賞金政策が一層强化され、炭價は依然据置かれるものと見られる。

右の如き事態に對する措置は下期石炭對策に綜合され既に實現の緒についてゐるが、政府の施策に呼應して擧國石炭確保の運動が十月一日を期して全國に展開されてゐる。

〔その他の金屬類〕 銅及び鉛、亞鉛等の卑金屬類、特殊鋼配合原料等は國內資源の積極的開發、代用品の使用、手持原料或ひは回收品による補充等あらゆる努力を拂ひつつある結果、當面緊急の需要の充足には支障を來してゐない。これらの金屬類の需要は鐵鋼等のそれに比すべくもない少量ではあるが、もしこれを缺けば兵器、機械等の製造に直ちに支障を生じて鐵鋼增產への懸命の努力も水泡に歸する惧なしとしない。かかる跛行的な事態を未前に防止することこそ今後の重大な課題であらう。

以上を通觀し來れば金屬回收の必要愈、切實なるものを感ずる。今春開始せられた特別回收運動の上期實績はほぼ所期の目標に到達した。しかし銅製品にはなほ一段の努力が必要とされ、かつ全體として下期の計畫は上期に比して大であり、運動に對する一般の關心も薄れ行く傾向にあるから、十月より着手せられた家庭方面の回收と併せて運動の徹底を期さねばならぬ。

去る七、八月の二ケ月間に亙つて全國に施行された戰時金屬非常增產强調期間は鐵、銅、鉛、亞鉛等の主要鑛種每に豫め期間中の生產目標を設定したが、關係官民の挺身敢鬪よく逆條件を克服して輝かしい結果を收めた。卽ち目標を突破せるものは十一に達し、期間中の實績を昨年同期に比較すれば、鐵二倍、銅三割、鉛、亞鉛各四割增加であつた。身を以て隘路を打開せむとするこの努力こそ、生產力昂揚への眞の起動力たるものである。

第五、戰時陸運の非常體制確立

大東亞戰爭の遂行ひいては大東亞共榮圈建設には、交通運輸政策上、その地理的環境から見て當然に海運の整備擴充に重點が置かれる。從つて大東亞戰爭が勃發し、戰果の擴大と占領地建設の進捗に卽應し船舶の國家管理、計畫造船を急速に實施したが、廣大な水域と無限に散在する島嶼を含む大東亞圈內の物資輸送を確

保するには我が船舶保有量では到底應じ得るものでなく、造船問題が焦眉の急務となる所以である。

殊に戰時下では海上輸送の危險は陸上輸送に比し遙かに大きく、また作戰の要請から船舶徵用も增大し、戰時に海上輸送能力の低下するは不可避である。かくして海上輸送力の增强と並行して海上輸送の負擔輕減のため陸運の增强とこれへの轉換を實施せねばならない。

先般來、企畫院を中心に鐵道、遞信その他關係各省間に輸送力增强充實の具體策が考究され、十月六日の閣議において『戰時陸運の非常體制確立』に關する方策を決定した。その主眼とする點は

一、內地沿岸海上輸送の貨物を極力陸上輸送に轉移せしめ、さしあたり石炭輸送確保を主眼とし、次いで銑鋼その他重要物資に及ぼし、また樺太、鮮、滿、支にも實施する。

二、貨物重點主義の結果として旅客輸送は一層の抑制を加ふ。
三、陸上輸送への轉移に伴ひ現在の陸上輸送の急速かつ徹底的なる整備擴充を圖る。
四、餘剩船腹は大陸及び南方に振り向けることとなつてゐるが機帆船も一部可及的南方よりの石油輸送に、一部は南方各地の沿岸航路に充當する。

この轉移の持つ意義は戰時下極めて重要である。殊に本年度交通動員實施計畫が重要物資の輸送增强と國民生活必需物資の輸送確保を目的として船舶、鐵道、港灣荷役、小運送を通じ各部門の連繫協力を緊密にし、有機的、綜合的に輸送力を最高度に發揮するにあつたが、今回の戰時陸運非常體制は從來の海、陸二元的輸送を陸運のみに一元化した。陸運の役割は明に劃期的な重大意義を持つに至つた。

しかし我が國陸上輸送は從來といへども決して餘裕があつた譯ではない。戰時

經濟の進展に伴ひ、陸上輸送を必要とする物資量は年々增大し、或は戰時輸送委員會(企畫院內)或は鐵道輸送協議會(鐵道省及び鐵道局內)を設けて、全國的に重點主義的輸送計畫を樹立し、輸送の確保を圖つてきた。

しかるに今回の戰時陸運非常體制により從來主として沿岸海上輸送によつてゐた石炭、銑鋼等の大量貨物の相當部分を陸上輸送が引受けることになつた。所が我が國鐵道の特質上また荷役その他附帶施設の上から見て鐵道はこの轉移を充分肩替りしうる狀態になく、この至難な役割を鐵道省が敢然引受けたことは時局下海上輸送問題の緊迫性を充分認識せしめるであらう。鐵相は『國鐵職員は……上下一致輸送奉公の精神を强力に發揮する覺悟』であり、『全陸上運輸機關の綜合力の最高度發揮を必要とする』と述べ、その堅い決意を示してゐる。而してこれが具體策としては現有施設の極度の效率向上、使用效率少き施設の轉用、國有鐵道地方鐵道軌道自動車等陸運諸機關の綜合輸送力の重點主義的使用、旅客及び貨物自

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

動車の交通圏毎にする事業統制の强化と事業の整備、省營貨物自動車の擴充、港灣小運送業の一元的統制等輸送力の最高度の發揮と不急不要の輸送は旅客貨物共に極力これを抑制しなければならない。すなはち我が戰時經濟の現狀を深く理解し、また盟邦或は敵國の實例に鑑み、一億國民は鐵道非常對策に積極協力するこそ大東亞戰爭完遂への一大寄與に外ならない。

第六、最近の食糧事情—外米依存の脱却—

五千五百萬石と云ふ前年產米の甚しい不作尻を受けて、本米穀年度(自前年十一月至本年十月)の需給關係が著しく窮屈であることは當初から豫見されてゐた。從つて食糧對策は米穀のみならず麥その他の雜穀等をも綜合化し、同時にまた生產部面のみならず流通、消費の全部面を統制する方向に進み來つたことは周知の通りである。しかもなほ需給の不均衡は相當量に上り、かつ年々增加する傾

向にあり、消費規正はほぼその限度にまで强化されてその餘地に乏しい現狀である。從つて移輸入米に依存する處は當面相當に大きい。

年初以來の米供出狀況は極めて好調で割當量を突破することは確實視され、他方新麥の集荷も目下進捗中である。主要食糧としての麥類(大麥、小麥、裸麥)の重要性に鑑み、昨年來全販賣麥は國家管理に移されてゐるが、自家用消費量の劃一的算定が困難なため保有制は未だ採用されてをらず、これがために一部地方では政府供出以外の部面に流れる傾きがあり、麥類についても米と同樣保有制の實施が考慮されてゐる。麥類の價格の割安是正も農村側から强く要望されてゐたのであつて、當局もその妥當性を認め十八年產麥については十月末買入價格の引上を行つたのである。因に米價に關しては過般の協力會議委員會の席上當局より價格引上は不可能であり、助成金も現狀を以て至當とする旨が表明された。

十月の端境期を目前に控えての消費地の需給は好調に推移してをり、十七年產

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

米の豐作も確定的となつた現在大局よりすれば何等懸念の要はない。然し部分的には朝鮮米の本年作柄が旱害等の爲に著減を見込まれ、既に今夏以來の移入に若干の支障を生じてゐる外、臺灣米についてもほぼ同樣の事情から期待薄であり、さらに外米輸入も船腹關係よりして稍〻遲滯してゐる。從つて米麥の供出を一層促進することが刻下の急務とされ、九、十兩月に亙つて早場米の早期買上が行はれてゐる。この新米及び混食用新麥の集荷は前記移輸入狀況に鑑み重視されねばならず、端境期の食糧事情も一概には樂觀し得ない。

待望の昭和十七年產米の第一回豫想收穫高(九月二十日現在)は六千七百三十萬石、前年實收比增二割二分三厘と發表された。右は昭和十四年の實收高六千九百萬石弱には及ばぬとはいへ、一兩年の減產傾向を脫却して、現下食糧事情に資する所顯著である。然し外地の作柄は災害等による減收を免れず、既にその影響も若干現れてゐることは前記の通であつて今後內地への供給餘力は殆んどないものと見られるから、內地作柄の良好のみを以て樂觀するには事態は深刻に過ぎる。かくして需給を推算すれば明年度もまた今年に近い量の外米輸入を要する譯であるが、現下の事態よりして外米への依存は可及的速かにこれを脫却する必要にせまられてゐるから、今後の增產對策に萬全を期するは勿論、米麥、小麥粉、乾麵、諸等の綜合配給を徹底せしめ、消費規正を一段と强化することもまた不可避とされよう。

第七、農村における思想動向

最近農村問題、就中その思想動向が盛んに論議されてゐるが、農村一般の思想傾向は概して堅實といへる。尤も大東亞戰爭勃發前までは可成り不平、不滿も多く相當憂慮すべきものもあつたやうであるが、赫々たる戰果と政治の倫理化による國民的感情への訴へは戰時下の農民をして緊張せしめ、甚しく理解と認識を深

めるに至つた。目下のところ一部を除いては以前の如く資材、勞力問題を口にするものも少く、穩健、素直なる農村人ほどより強く心から國を念ひ、必勝不敗の信念に燃え、公債消化、金屬の供出等に眞面目に努力してゐる。

しかし身近に感ずる諸問題より生ずる斷片的な不平不滿は今もその後を斷たず、國家目的を強く意識し乍らも、種々の内燃的感情により、往々にして何等かの刺戟事象に遭ふと、これが表面化して雷同するといつた傾向は今もつて少からずある。殊に都市近郊、特に軍需工場近接の農村ほど激しいが、その他の農村は資材の缺乏と勞力の不足をも克服して一意増産に邁進してゐる。

先頃の中國西部及び九州方面における風水害に該地方農村の打擊は近來になく甚大であつたが、官民一體復舊に涙ぐましい奪闘をつづけてゐる。しかし農村思想の惡化、卽ちコミンターンや人民戰線的思想連繫の問題の如きも全然杞憂とは云ひ難い。ただ農民思想の特質として身邊の些細な事象に捉はれすぎる感なしとしない。例へば些少な肥料不足でも、これのみに終始して囂々たる聲を放つが、事情の判明と共にかかる不滿は霧散し、自給肥料を以て補ふ如きである。また他物價と農産物價との不均衡に關する不平も時局認識の徹底によつて諒解するに及べば漸時減少するのである。

しかしながら農村の一部には、或は農村關係行政機構の簡素化、實情への卽應、下意下通により農民をして農業報國に率先せしめる如く指導されたしとの要望もあり、或は應召家族扶助の徹底により歸還軍人の離村を防止し、これら有爲農村指導者の喪失による精神的打擊を輕減されたしとの聲もある。そのうちでも肥料或は農業資材(地下足袋、野良着、鍬鋤、藥品、種子等)の適時、圓滑、迅速な配給は最も強く要望されてゐる。しかも、農業報國に獻身努力する農村子弟には娯樂設備の貧弱、教養文化施設の缺除等から自ら都會を憧憬して離村する者も多い。殊に酒は農村における殆んど唯一の愉樂の糧でありさらに疲勞回復の基として必

需品的色彩を持ち、これが配給の増加或は自家釀造の許可等も一部には要求されてゐる。公債の割當についても現金收入の多い都會への割當增加を要求する向もある。殊に今日の都會地殊に華街の盛況を見聞した農民の思想的動搖は意外に甚大で、この點重大な反省を要すると考へられる。

以上の外、保有米の問題、賃銀問題等々些細な問題が常に起伏的に派生してゐる。特に農產物價格の他物價に對する相對的低位及び賃金問題の不適正等より農村の自給自足化傾向及び小作農の離村傾向が現はれ從つて小作地返還の傾向顯著で、食糧增產對策上洵に憂へるべきものがある。今次第三回中央協力會議總常會議席上においても最も深刻に論議されたものは蓋し農村問題であつたのを見ても將來における農村對策の多難は想像に餘りあるものがあらう。

以上農民の思想動向は目下特に憂慮すべきものはないにしても、身邊の斷片的事象による不平、不滿についてはこれが原因となる農村政策或は指導の上における缺陷を速かに是正し、農民をして喜々として國本農業の本質を體得せしめ、積極的に國策に協力せしめ、以て、國力の根源たる農村の健全なる發達を計ることが緊要なりと考へられる。

附　錄

地方長官會議における東條內閣總理大臣訓示(要旨)　(昭和十七年十一月十三日)

今回特に地方長官の會同を催したのは主として行政簡素化の實施と戰時態勢の强化とに付いて諸官一段の奮勵を求めんとする趣旨に出でたのである。

大東亞戰爭開始以來早くも約一年を經た。此の間　御稜威の下陸海軍將兵の善謀勇戰と一億國民の協心戮力とに依つて帝國の收め得たる戰果は正に史上空前のものである。玆に戰略的にも政略的にも此の大戰爭を戰ひ拔き、米英を屈服せしむべき基礎が築き上げられたことは誠に御同慶に堪へぬ次第である。帝國は今や此の必勝の礎地を全幅的に活用し且戰局の進展に應じ、愈〻之が擴充强化を圖りつつ飽く迄も攻勢を續けて敵を擊滅せんとして居るのである。然しながら順境に油斷は大敵である。我々は徒に緒戰の大戰果に醉ふが如きこと無きは勿論、大詔に昭示せられましたる　聖旨を奉戴して愈〻一億一心醜の御楯たるの覺悟を固くし、搖ぎ無き鐵石の團結の下此の大戰爭を勝ち拔き以て　宸襟を安んじ奉らねばならぬのである。

政府は今夏以來行政簡素化の實施、大東亞省の設置及內外地行政の一元化に付銳意力を致し過般此等の手續も完了して其の實施を見るに至つた次第である。既に發表致した通り行政簡素化の實施も大東亞省の新設も、更に又內外地行政の一元化も、總て、國策の樹立及遂行の一切を、大東亞戰爭の目的完遂の一點に集結せんとする大方針より出でたるに外ならぬのである。惟ふに行政處理の方法に就ては尙未だ戰時に適應せざるもの少からず、中央地方を通じ徹底的に刷新を圖るの要があるのであるが、就中直接民衆に接すべき地方の第一線行政に於ては事を處斷するに一層迅速なるを期し、人に接するに一層親切なるを期すること等格段の改善を要するものがあるのである。開戰以來地方廳の事務も激增して居ることは政府も充分承知して居るのである。而も政府が今般敢て官廳員の減員を行ひ戰時に適應すべき行政の簡素化を實施せんとするものは一に戰爭に勝たんが爲である。諸君は克く其の趣旨を體し此の上一層の熱意と工夫とを行政實施の上に用ひられんことを私は要望して已まないものである。

此の機會に於て私は尙諸官に對し二、三の事項に關して特に要望し中央、地方一致協力一體となつて戰ひ拔かんことを期し度いと存ずるものである。

第一は生產力の擴充に付いてである。

今や帝國は廣大なる地域海域に亙り愈、大兵を擁して曠古の大作戰を續けなければならないのである。隨つて軍需資材の要求は莫大なる數量に上り、之が基底を成すべき國防生產力は劃期的擴充を必要とするに至つたのである。一方緖戰に大敗を喫したる敵國は其の資源と其の生產力とを恃んで漸く反擊態勢の整備に狂奔するに至つた。之に對し帝國は我が戰略的優位を活用し、三千年來傳統の攻擊精神を發揮し、飽く迄敵を索めて之を擊滅する方針を堅持して居るのである。固より之が爲には如何なる情勢に際會するも磐石不動の必勝の態勢を確保し且絕えず之を强化すると共に常に敵に對して我が自主的方策を執り得るやう戰力を擴充せねばならぬのである。而して之が實現を期する爲には此の際生產擴充に從事する指導者及從業員の深刻なる時局認識に付いて不充分なる點なきや、國內產業經濟體制に於て相互の間に連絡を缺くが如きことなきや、更に又各種施策の未だ徹底せざるに依り國民の潑剌たる氣分を抑壓し爲に能率の低下を來せることなきや等に付各方面に於て更に反省して改むべきものあらば直に之を改め實行すべきは直に之を實行せねばならぬのである。戰爭遂行の爲には個々の面目に執着するが如き平時的の考へ方は之を、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一擲し是なりと信じたる方向に即時邁進すべきである。今や國内に於ける各般の機構及運營は超非常時的事態に即應し、生産力の急速増强に重點的に結集せらるるを要するのであり而も其の斷行は既に一日を爭ふ事態に到達して居るのである。是が爲の拔本塞源的施策に付ては政府に於ても充分考究の上實施すべきは勿論であるが、地方官民の努力の餘地亦尠しとしないのである。玆に私は諸官が更に率先陣頭に挺身して國民の格段なる緊張を促すと共に生産能率發揮の爲各般の施策の實行に遺憾なからんことを望む次第である。

第二は交通運輸に關する問題に付いてである。

戰爭遂行力增强の成否は一に交通力特に海上輸送力の如何に懸つて居るのである。

申す迄もなく戰爭遂行上必要なる物的國力の維持增强の爲には極力現有輸送力の能率向上に依り船腹の不足を補はねばならぬのであり、之が爲には海陸運輸の增强に關して拔本的對策の强行と徹底的重點輸送の實施とを特に必要とするのである。諸官は深く思ひを此に致し力の及ぶ限り政府の施策の實行に協力せられ度いのである。

第三は食糧問題に付てである。本年度の稻作は幸にして豐作であつたが明年度に於ける大東亞

全體の需給を考へるときは決して樂觀を許さざるものがあり尙大いに努力を要するのである。隨て食糧增産及其の供出督勵と食糧節約の對策とは依然緊要であるから、諸官格段なる勉勵を望むものである。

第四は一般物資の節約及國民精神の昂揚竝に國民貯蓄の增强に關する問題に付いてである。

南方建設は現地軍政の活潑なる活動に依つて目覺しき進展を遂げつつあるのである。就中液體燃料の開發取得は豫定以上急速なる進展を見つつあるのである。然しながら輸送等の關係よりして國内民需液體燃料の需給狀態は當分の間更に窮屈さを加ふべきことを免れ得ないのである。隨て廣汎なる南方地域の占領により直に國内の物資不足を緩和し得べしと爲さば是れ素より大なる誤であり尙當分の間は物資不足を覺悟しなければならないのである。且軍需優先充足の見地より一般民需は更に徹底的節約を必要とするのであつて、全國民が必勝の固き意思を以て如何なる不自由をも堪へ忍ぶと共にあらゆる工夫を凝して國内産業の振興に當り、又其の生活を簡素にするの要があるのである。之と同時に愈〻國民貯蓄の增强を圖り、以て戰力培養に資せねばならぬことは更めて申す迄もない所である。是に於て諸官は愈〻國民精神の昂揚を圖ると共に一方又潤澤

ならざる日常生活物資に付最大限度の圓滑配給と合理的活用とに大いに力を致さるると共に國民貯蓄の奬勵に一層の努力を加へられねばならぬのである。

最後に特に一言し度きは官紀の肅正と機密保持に付いてである。官紀の嚴正なるべきことは時の如何を問はず今更言を俟たない所である。戰爭下に於て官吏の職責は殊に重大であり、國民の信頼を得るを要すること今日より大なるはないのである。然るに近來官吏の中に私慾に迷ひ操守を忘れて官紀を紊し爲に法網に觸るる者をも見ることは私の最も悲しむ所であり大いに戒めなければならないのである。又戰爭遂行に當つて特に機密保持の緊要なること是亦言を俟たぬ所であつて戰爭の進展に伴ひ愈〻其の言動に就いて自重する所がなければならぬのである。現在帝國は正に國家の隆替を賭して大戰爭を遂行して居るのである。苟も官吏たる者は此の時機に至りて自から其の使命の如何なるものなるかを思ひ、一身を君國に捧げて誤無きを期せねばならぬのである。而して此の事たる地方長官の率先垂範に俟つ所亦頗る大なるものがあるのである。諸官の一層の自重自肅を切望して已まぬ次第である。

以上は此の際政府より地方長官に對して要望する事項の概要である。今や我々の直面して居る、時局は論議を必要とする時代に非ずして一にも二にも實行を以て總てを處理して參るべき時機なのである。重ねて申すが今や日本は必勝の基礎の上に立ち前途に輝しき光明を抱いて堂々と戰つて居るのである。而して此の基礎の上に眞に有終の美果を收むることは我々一億國民の大使命なのである。私は茲に切に諸官の奮起を要望して已まないものである。尚詳細なる事項に關しては夫々關係當局より指示することとする。

是を以て私の訓示を終る。

地方長官會議に對する企畫院總裁口演要旨（昭和十七年十一月十三日）

帝國が只今直面致して居る大東亞戰爭に勝たねばならぬことは今更申すまでもなく又其れが爲め國家の總力を擧げて戰はねばならぬことも諸官御諒知の事である。只問題は如何にして又如何に總力を擧げるかである。戰爭に勝つ途は色々と考へらるるが、其の根底を爲すものは依然として武力戰の絶えざる勝利である。即ち武力戰の常勝である。夫れが爲めには國家全體の總戰力が常に强靱であることが絶對的な要件である。

戰力なる言葉は頗る簡單な二字であるが、其の內容は廣汎であり複雜多岐である。戰爭に於ては國家全體が戰力である。而して武力が其の頂點である。之を刀に例へれば國家は刀其のものであり、武力は其の刃であり鋒先きである。戰爭に勝たんとする國民の意志力其の他諸々の精神力、此の精神力が生む叡智、此の精神力や叡智により生れて來る發明工夫及其れ等の活用により生產せらるる各種の物又は更に其の物の活用力等、此等が總て彼此綜合調和して其の國の戰力を構成するものである。

敍上の如き各種要素又は條件の內で戰力の上に最も重大なる基礎を爲すものは戰爭に勝つことを唯一絕對の目標とする國民の結束力である。

此の結束力は我國民に於ては國體觀念が明徵になればなる程益〻其の强靱性を加へて來るのである。

世間には戰力と物的國力とを混同し甚だしきに至つては戰局の前途を物的國力の比較のみを以て判定せんとするものが存するのであるが、之れは大なる誤りである。

物は人及自然の調和による所產であり之を活用するものも人である。夫れ故に結局は人が根本

である。故に古來戰爭の勝敗の要素として天地人の三を擧げ、其の中でも人を以て最大にして最終の要素と致して居るのである。

人が戰力の中心であり根本であるとなれば、更に人間活動の原動力である精神力——我國に於ては大和魂が總ての根底を爲すものであることは申す迄もない。今日生產增强の問題が叫ばれるが之は過去に於ける經濟行爲としての物其の物を欲するのでなく我國民が本有して居る尊き大和魂を全的に躍動せしめ之により敵戰力を壞滅する爲めに必要とするのである。

而して生產力を增加すると言ふと直ちに勞務、資金、運輸、原材料等兎角物的面のみが多く取上げられ其の論ぜらるる多くは數量である。勿論之等のものの數量が生產の必須要件であるには相違ないが之等を戰爭の要求に應じて效果ある樣に營爲するものは人である。其處で生產增强の爲めに資金とか原材料とかの面を取上ぐることは固よりであるが夫れにも增して必要なことは生產從事者の魂の躍動を促すことである。從て此の必要性は生產の營爲の上に於ては何よりも先づ企業經營者の精神の昂揚と勞務者の管理が頗る重大に取扱はれねばならぬのである。

勞務の管理が適正であつて勞務者の魂が全的に躍動する樣になれば夫れから各種の創意と工夫

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

も生じて來るのである。而して原材料や運輸の不足等から來る不利不便を歩一歩克服して參るのである。從來勞務管理と申せば單に勞務者の衣食や慰安や衞生や危險の防止とかに力を盡したが之も固より必要であるが之等を通じて更に又企業經營者の率先垂範的指導と相俟ち勞務者に精神の敎養を與ふることが特に重要である。

元來戰爭は創意と工夫の競爭である。此の創意工夫が活潑であるものを詳察すると其處に必ず「戰爭に吾れ勝たん」との精魂の活躍があるのである。過去に於ては利潤の追求乃至給與の累增が此の創意工夫、能率發揮を刺戟する根本動因であつたが、今日は此の追求又は累增が經濟の綜合力發揮の觀點からして限定せられて居るのであるから之を從來のままに放任致したので意も創は能率發揮も停止致すものである。否却つて害を生ずるのである。從て無限の精神力を無限に活動さす爲めには戰爭完遂に關する國民の責務を徹底的に自覺せしむると共に利潤乃至給與以外に生産に報ゆる國家的施策を必要とするのである。勤勞顯功章の御制定の如き其の一つであるが、尙ほ之以外にも國民思想の實情に則して色々と工夫せられねばならぬと思ふ。

從來は利潤の追求が殆んど唯一の經濟原動力であつたが、戰爭經濟夫れは戰爭指導の大方針に基く國家總力の計畫的發揮及活用を目標とする計畫經濟の營爲からして利潤の追求が制限せらるるのみならず其の活動の範圍も限定せられて來るが、此の制限下に於て戰力の增强に必要なる生産の活潑化を期せねばならないのである。夫れには先づ以て經濟觀念の切換へ確立が必要である。夫れは利潤追求絶對に對し生産追求絶對、換言すれば國家の計畫に基き其の計畫內に於ける生産の確保增强が一切の經濟活動の基本觀念とならねばならぬのである。而して更に其の觀念を具現する原動力を爲すものは利潤又は給與累增の追求以外に戰爭完遂への御奉公力と戰勝の感喜とに求めねばならぬのである。此の觀念の確立を意欲し又確立に應じて夫れ夫れ官民の責任分野が具體的に定められて行かねばならぬのである。政府は此の點に關し常に思索を重ねつつあるのである。

戰爭計畫經濟の運營に付いては官吏は其の職分に付き明確なる立場を持つことが何よりも必要な事である。申す迄もなく計畫經濟の下に於ても生産の實質的なる最後の實踐者は之に從事する國民であるのである。而して國民が其の生産責任を全うする爲めには小にしては一作業體の中に於ける人と人物と物人と物との有機的活動を必要とし、又大にしては經濟の全分野に亙り相互の

間に有機的な連繫流動を必要とするものである。

企業が既に眞に生產第一主義の下に計畫實現の責任を有する場合、官吏も亦生產第一主義の觀點より各種の統制法規其の他諸法規の運用に當つて法規の末文に拘泥することなく、戰爭計畫經濟の條理に從つて生產を活潑ならしむる樣部下の指導訓練に付き特別の配意を願ふ次第である。

戰時に於ける經濟行爲は凡て現實の實體の上に營まれるもので觀念的な各種の論議は百害あつて一益がない。戰爭遂行上の眞理は古來嚴存して居るので此の眞理を如實に實行して其の效を收むるものは實體に適應する實踐其のものである「何時、何處で、何々が、何々をして」とは戰時行政官の努力の焦點であると思ふ。物の實體が明かであり戰爭遂行意志が强烈であれば打つべき手は自然に生れて來る。今後の戰局を洞察致す時此の實體の把握は愈、其の重要性を加ふることを痛感致すのである。此の點又諸官の御努力を期待するものである。

之を要するに生產の增强と言つても別に特別のことは何にもない。矢張り戰爭の勝利に對する國民全體の信念と意志との强烈なる動きの上に御互の叡智を傾けて各自己の職責の上に眞に努力を集中することである。御互が切々として此の戰爭の重大性を內省せられ、自己の天職が何であるかを深思致されて眞に官民一如戰に勝ち依て以て皇運を扶翼し奉らんとの決意さへ强烈であれば如何なる難關をも突破致すことが出來て、相手が如何に動くとも夫れは問題とならぬと存ずるのである。結局生產の增强と申すことは悉ゆる分野に於ける國民の御奉公力の發揮の現象部面に過ぎぬのである。

生產關係者懇談會における東條內閣總理大臣挨拶要旨（昭和十七年十一月十五日）

今日戰爭完勝の鍵とも稱し得べき生產擴充關係の問題に付て所見を申上げ且又御意見も承り以て充分相互の意志の疏通徹底を圖りお互が眞に一本になつて戰爭遂行に邁進致し度いと存じまして本席を設けた次第であります。

各般の情勢を綜合判斷致しまするに、大東亞戰爭は漸く緖戰の域を脫し本格的段階に入つたと申すべきであります。食ふか食はれるかの激鬪は愈、熾烈の度を加へて參つたのであります。而して戰勢は一に今後に於ける彼我の活動如何に依つて決せらるべきは更めて申す迄もないことでありまして、今や此の緊急の秋に處し皇軍將兵は一切を獻げて、第一線に戰つて居るのでありま

す。政府又國民の陣頭に立つて、渾身の努力を致して居る積りであります。國民又あらゆる艱苦を克服して涙ぐましい奮闘を續けて居るのであります。而して諸君は此の間に處して、國家の存亡に係る生産の部門を擔當して營々として、活動を續けられて居るのであります。

彼を思ひ此を思ひまする秋、諸君の並々ならぬ御努力に對し衷心より感謝の意を表すると共に、一刻も、おろそかに出來ない生産の重要性に鑑みまして忌憚のない所見を披瀝して、諸君の一層の奮起を願ひ、更に諸君を通じて全國の生産關係者の發奮を望む次第であります。

○先づ經營幹部としての心構へに付いてであります。大戰爭に處する經營幹部の心構への根本的なものとして、私の特に感じ且諸君に御願ひ致し度いと存ずる點は徹底せる戰爭意識の下に、實行力を發揮すると云ふことであります。

今や帝國は一切を擧げて大東亞戰爭完勝の一事に集中して居るのであります。此の大戰爭は平和到來の時に於ける採算を今から頭に置いて仕事が出來る樣なそんな生易しい戰爭ではないのであります。どうか經營者諸君は、是が非でも勝たなければならない此の戰爭をしつかり意識せられ、飽く迄も盡忠報國の精神に燃ゆる滿々たる闘志を以て此の上共眞劍な努力を續けて

戴きたいのであります。

而して今や我々の直面致して居る現時局に於ては滅私奉公とか、産業報國とかを口先ばかりで唱へて居ることは全く無意味であり、百の議論より一の實行が遙かに大切であることは敢て贅言を要しない所であります。換言すれば戰爭下不可缺の生産に勇往邁進する實行第一主義こそ、産業人のみならず、關係官吏に對する最も切實なる國家的要求であります。

以上の見地に基きまして私は經營幹部諸君に對し特に次の二、三の點を强調致し度いと存ずるものであります。

第一は所謂重役の陣頭指揮に付てであります。今や我國の勞資關係は單なる金錢づくの雇傭契約ではないのであります。日本獨得の一大家族主義が經營の中に織り込まれなければならないのであります。重役はいはば經營に於ける家長であります。其處で自ら現場に赴い家族たる勞務者の面倒を見たり、其の考へや希望を聞いてやつたりする、玆に經營を打つて一丸とする精神的團結が生れ、生産能率の向上が見られるのであります。又現場を見て自ら體驗し、且つ反省することに依つて重役が、爲すべき施設等を具體的に發見することも決して少くないので

アジア経済研究所資料センター
Japan Center for Asian Historical Materials
http://www.jacar.go.jp/

あります。重役は大綱を握ればよいと稱する向きもありまするが、現場を把握しない限り、正鵠を得た大綱を握ることは困難であります。又眞の實情を知つて始めて適時適切なる命令を下し指導を爲し得ることが出來るのであります。素より陣頭指揮を强調することは重役の其の本來の任務を放棄し或は輕視してもよいと云ふのではないのであります。從來の重役としての仕事に更に陣頭指揮を附け加へることを意味するのでありまして、茲に戰爭下經營幹部の非常なる決意と努力の必要を痛感するものであります。

第二に申し上げたいことは泣き言の嚴禁にあることであります。申す迄もなく戰爭にはあらゆる困難や無理を伴ふものであり、この困難や無理を突破して行く所に戰勝の要諦があるのであります。平時の頭で泣き言ばかり云つて居る樣な人がありとせば全く思はざるの甚しいものであります。勿論政府と致しまして手段を盡して經營者諸君に迷惑のかからない樣にするは素よりのことでありまして、其の全力發揮を容易ならしむる爲、出來得る限り努力致すつもりでありますが、經營者諸君が進んで創意を發揮しあらゆる不足を克服してこそそこに眞の進歩があるのであります。而も、それには根本的なる技術の進歩を圖ることも勿論大切でありますが、

案外身近で簡單に實行出來ることで、氣が付かないものが澤山あるのであります。之等を積極的に取りあげて實行に移して行く必要のあることを各方面の視察により屢、私は痛感させられるのであります。

第三は總て國家的立場に於て生産に從事することであります。

今や生産者の努力如何は直接第一線の戰力に影響して居るのであります。此の切迫した情勢下に於きましては諸君の當面して居る問題は生産の大小であつて、利潤の大小ではないのであります。從來の營利主義より一歩も出でずして、生産に關する國家の期待に副ひ得ない場合があつたとしたならば、由々しき大事であります。利潤の多い少ないと云ふことに依て、爲すべきこともおろそかにするが如きことが萬が一にもあつたとしたならば、一切を國家に捧げて生死を超越して戰つて居る第一線將兵の背後より弓を引く者と云ふべきであります。素より永い間營利第一主義に依て事業を遂行して參りました現在の機構なり、習慣なり、心構へなりより脱却して、急に國家本位に經營せよと云ふことは、實際問題としては、色々と難かしいこともあると存ずるのであります。然し乍ら國家の要求の前には、如何なる困難も克服せねばならぬ

のであります。之には會社の後楯となつて居る株主の心構へも變らなければならないのであります。それと同時に政府としても、國家目的に協力した爲に生ずる損失に就いては補償することを考慮せねばならぬのであります。此の點新たなる構想を以て對處しなければならないのでありますが、何んと申しましても其の根本に於ては幹部の心構へと方針如何とが、增産か、現狀維持か、を決する鍵を爲すものと考へられるのであります。營利第一主義の弊風より脱却し、國家本位に徹底せる經營の改善、技術の刷新を行ひ、積極的に生産增强を策する所に新しき經營幹部の進むべき路が存するのであります。

前述の三點と關聯することでありますが、工場防空に對して經營幹部は一段の熱意と積極性を示さなければならないと思ふのであります。工場も、機械も、設備も總て、戰に捷ち拔く爲の國家緊要のものであると考へた時又事實そうでありますが之を準備と訓練の不足の爲にむざむざ敵機の好餌とするやうなことがあつては國家、國民に對して洵に申譯がないのであります。

工場防空に於ても亦實行第一主義であります。重役が先づ個々の建物毎に生産に關係のない時間に自ら陣頭に立つて基礎的訓練を實施し其の次は作業中に實施する。斯くして工場全般の綜合訓練をしたならばよいと思ふのであります。而も之には何も專門的の人を要しないのでありまして、重役の常識で充分であります。

○次は勞務管理者並に勞務者の心構へに付いてであります。

現在の勞資關係は多分に國家的性格を帶びてゐるのであります。特に國家の意志によつて經營に馳せ參じた徵用勞務者に於て最も顯著であります。勞務管理は會社の一勞務課長のみが當るべきものではないのであります。勞務課長の扱ふものはその事務のみであり、社長以下の經營幹部全部が各々その持場に於て勞務管理の衝に當つてゐると考へなければならないのであります。

特に注意を要するのは青少年工の勞務管理であります。青少年工は近い將來に於て國家の運命を背負ふべき中堅人物となるものであり、而も現在は心身共に固つてゐないものであります。其の心身の健全なる發達如何は國家の運命を左右すると云つても過言ではないのであります。就中幼年工は大部分が數年ならずして國軍の構成分子たるものであります。從つて陸海軍

に於ては世界無比の國軍を維持する必要上之等青少年工の心身の鍛錬に就て深甚なる關心を寄せて居るのであります。

勞務管理に際しては斯る點に深く留意せられ、勞務者特に青少年工の配置、待遇、寄宿舍の設備、環境の整備、其の他青少年工の監督指導に遺憾なきを期し充分なる實意と溫かき親心とを以て事に當つて戴きたいのであります。それには勞務管理に携はる者の率先垂範が何より大切と思ふのであります。

次に勞務者の心構へでありますが勞務者は此の際特に自己の勤勞の國家的性格を自覺し、一定時間だけ働けばそれでよいと云ふが如き舊き時代の考へ方を棄てなければならないのであります。勞働は國家に對する奉仕であります。而もそれは自覺せる者にとつては苦痛ではなくして寧ろ歡喜であります。この考へ方に徹する時、そこに勞務者の誇りと自信とが生れるのであります。斯くして青年工は少年工を先輩は後輩を指導誘掖して全部が一體となつて戰爭完勝と云ふ國家大目的に仕へて戴きたいのであります。

○次に官吏の心構へと官民協力に付いてであります。

現在生産が國家の要求に依つて營まれ、統制が國家に依つて行はれる以上、其の衝に當る官吏も亦新なる心構へを以て生産增强に對處する必要があるのであります。卽ち戰時生産の重責を擔ふ産業界關係者の能率を向上せしむる如く靜に自らを顧みて改むべきは速に改めねばならぬと信ずるのであります。此の見地に基きまして私は事務處理の迅速竝に法規の運用と云ふ二點に就て特に申し述べたいと存ずるのであります。

先づ第一の事務處理の迅速と云ふ點でありますが、統制經濟の圓滑化を圖る爲には許可、認可の迅速化、指令指示の急速實施と之が徹底的監督指導が絕對的の前提であります。苟くも事務の澁滯の爲統制經濟の運營に支障を生ずるやうなことがあつてはならないのであります。從つて極言すれば特別のものを除く外は拙速を貴ぶと云ひ度いのであります。若し拙速の措置をとつて之が惡かつたならば徒らに自己の面子に捉はるることなく之亦敏活に訂正すべきであります。素より迅速なる事務の處理もあく迄親切心が其根底を爲さねばならぬのであります。「迅速」と云ふ美名にかくれて親切なる取扱ひに缺くるが如きことは嚴に戒めねばならぬことであります。

附　錄

此處に一つ注意すべきは現在の官廳機構が如何なる問題に對しても一官廳のみの裁量で決定し得るものが尠いと云ふ事であります。從つて各官廳が與へられた職域の立場から自己の見解を主張する場合縱令其の動機は全く國家を愛ふる熱情から發するものであつても、結果に於て迅速なる處理の障害となるが如きことなき樣充分愼まなければならないのであります。要は其の當時の國家情勢が何を重視するやを虛心坦懷に考察したならば自ら其の歸着點を發見し得ると信ぜらるるのであります。

第二の法令の運用でありますが、現在のやうに總てものの動きの早い時代に於ては昨日施行された法律がもう今日の事態にぴつたりと卽應しないことがあり得るとも思はれるのであります。

茲に於て法令の運用に當る官吏の責任は愈、頗る重大となつて來て居ると申さねばならぬのであります。官吏は單に法令の消極的番人であつてはならないのであります。法令を無視した無軌道は許されませぬが、法令の活用を沒却せる、事勿れ主義、或びは前例踏襲主義は戰時活動の公敵であります。法は死物ではなく、國家の爲に存する生げるものでなければならないのであります。

而して官吏執務の改善に就ては此の際特に上官が懇切丁寧に而も積極的に部下を指導育成する氣魄が肝要と存ずるのであります。又官吏執務の改善に就ては民間側の協力が大事なことであります。些細なる事に關して徒に公平を要求せらるるが如き事は官吏の活潑なる活動を澁滯せしむる處があるものであります。例へば一月前には適當ならずとした事も今日に於て適當なりと考へられる事もあり得るのであつて、之を以て不公平なりとするならば官吏は結局前例踏襲以外には歩む事が出來なくなる虞があるからであります。又官吏民間お互が其の立場を理解しないで惡口を云ひ合つたのでは到底生產增强は覺束ないのであります。私は常に他人の惡口を云ひ他を批判する前に先づ自己を顧みるべきである。自ら顧みてやましくない時に初めて誠意ある忠告も發し得るのであると人に申し自分自らも實行して居るのであります。之を要するに與へられた自己の地位に於て、與へられた目標に向つて積極的な正しき努力を傾倒することこそ今日に於ける我々の態度であるべきであります。軍に於ける協同動作は、高等統帥の作戰計畫を基礎とし、各級指揮官より一兵に至る迄が與へられたる任務達成の爲自ら喜んで危地に邁

進することに依つて成立するのであります。それと同じく己れを空しうして挺身してこそ皇國の官吏皇國の産業人たる面目が發揮されるのであります。徒らに右顧左眄して他の氣配を窺つてゐたのでは結局前には進まず、從つて生産增加どころの話ではないのであります。

○最後に大東亞戰爭に對する國民の覺悟に付いて一言致したいと存じます。

國民の一部の中には、大東亞戰爭は緒戰の戰果に依り一段落を告げ、今後は輝かしき建設戰が殘るだけであると云ふ、全く安易の樂觀的氣分となつて、緊張を缺くもの、なきにしも非ずと認められるのでありますが、之は思はざるも甚だしきものであります。「もう日本はどんなことがあつても負けない」と云ふ安易な自惚れを拔きにして「どんな艱苦も突破して、絶對に勝たなければならない」と云ふ積極的な鬪志に終始しなければならないのであります。過去の戰果に醉つて、無條件に戰爭に勝てると云ふ樣な生易しい國民の心構は此の際絶對禁物なのであります。

而して又之とは反對に聯合側特に米國の物的戰力が尨大であつて其の生産が飛躍的に上昇する趨勢を見て戰爭の前途に杞憂を抱く向ありとせば之亦誤まれるの甚だしきものであります。

古來の戰史に徵する迄もなく物質の力のみが戰爭勝敗の決定的要素ではないのであります。物質の力素より大事でありますが、勝敗の要素には精神力、統帥、訓練、戰略的態勢等と謂ふ更に重要なる要素のあることを忘れてはならないのであります。然も此の點は我が國の最も優れて居る點であることを國民は忘れてはならぬのであります。

然し乍ら彼我の生産力の差が著しく增大することは我が方の犧牲を大にし戰爭の指導を困難ならしむる結果となることは、多言を要しない所でありまして、此の意味に於て生産部門に對する要求は愈〻切なるものがあるのであります。

又戰爭の長期化することは當然であるから、一時に精力を費すは持久の途にあらずとして努力に手加減を加ふるが如き傾向ありとせば、之亦大なる誤りであります。大東亞戰爭は申す迄もなく長期戰となる傾向を多分に持つて居ります。然し乍ら之は單なる「ゲリラ」戰的小さな戰が、だらだら續く所謂「細く長い」長期戰とは自ら異なるものがあるのであります。大東亞戰爭こそは大小幾多の決戰が次から次へと連續して行はるる長期戰なのであります。明日の決戰に備ふると共に遠い將來の決戰の事をも考へなければならない戰爭なのであります。

之を思ふの秋、一刻も空費することは出來ないのであります。現在の決戰を戰ひつつ愈〻將來の戰力擴充を圖らなければならない本戰爭の特質をよく考へられて、現在の施設を最高度に活用すると共に着々として將來の增産をも圖らなければならないのであります。

之を要するに今や帝國は是が非でも此の大戰爭を勝ち拔かんとして居るのであります。此の秋に當つて我國に特に必要なものは不可能を可能とする實行第一主義の人、與へられた責務に對して默々と精進する積極果敢なる人なのであります。而して斯る人々が如何なる地位に於ても、如何なる職場に於ても、此の重大時局に對する透徹せる認識と崇高なる國民的自覺に依つて續々と生れることを、私は堅く信じて已まないのみならず、かかる人物が大いに起用せられて大に活躍せられんことを强く待望して居るものであります。

指導者たる諸君に於かれまして、どうか、老若を問はず、實行第一主義の有用の人物を活かして思ふ存分働かせて戴き度いのであります。